

**2003年度**

# **免許課程シラバス**

**獨協大学**

# 【シラバスの見方】

1. 科目の授業内容は、目次で検索し確認してください。目次は対象者別（学科・入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。
2. 上段の欄は春学期、下段の欄は秋学期に開講する科目です。  
同じ科目が春学期および秋学期に開講される場合は、上段の春学期を参照するようになっています。
3. 下記の様式は、教職課程を例にしています。  
(司書・司書教諭のカリキュラムはひとつなので①②③の部分は「科目名」となっています。)

①旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
-----------	-------	-----	-------

①旧カリキュラムで通年で開講する科目（4単位）

②旧カリ科目名	④科目名（副題）	担当者	⑤担当者名
③新カリ科目名	④科目名（副題）	担当者	⑤担当者名
⑥ 講義目的および講義概要	春学期	⑦ 授 業 計 画	1 授業のポイント（以下同じ）
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	⑧		
対外参考文献	⑨		

②旧カリキュラムで半期完結で開講する科目（2単位）

③新カリキュラムで半期完結で開講する科目（2単位）

\*科目名・担当者で該当しない部分は「\*\*\*」で表示

④科目名に副題が表示されている場合がある

⑤担当者氏名（複数教員が担当する場合がある）

⑥講義目的・概要のほか教員からの要望を記載

⑦学期ごとに原則として12回の授業を行なう  
1回ごとの授業のポイントを記載

⑧評価方法は各教員で異なる  
免許課程科目は特に出席を重視する

②旧カリ科目名	④科目名（副題）	担当者	⑤担当者名
③新カリ科目名	④科目名（副題）	担当者	⑤担当者名
⑥ 講義目的および講義概要	秋学期	⑦ 授 業 計 画	1 授業のポイント（以下同じ）
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	⑧		
対外参考文献	⑨		

⑨授業で使用するテキスト等必要に応じ準備する

## 目 次 (1)

### 2003年度入学者(全学科)対象

教職課程にかかる科目の全学共通授業科目への読みかえ対応一覧 ----- 1

教職課程(教職に関する科目)	新カリキュラム	
教職論 -----	鳥谷部 志乃恵 -----	2
教職論 -----	川村 肇 -----	3
教育原論 -----	鳥谷部 志乃恵 -----	4
教育原論 -----	川村 肇 -----	5
教職心理学 -----	林 潔 -----	6
教職心理学 -----	森川 正大 -----	7
教職心理学 -----	横田 雅弘 -----	8

教職課程(教科に関する科目)	新カリキュラム	
日本史概説Ⅰ(古中世) -----	駒田 和幸 -----	44
日本史概説Ⅱ(近現代) -----	駒田 和幸 -----	44
外国史概説Ⅰ(東洋史) -----	兼田 信一郎 -----	45
外国史概説Ⅱ(西洋史) -----	古川 堅治 -----	47
地理学概説Ⅰ(自然) -----	秋本 弘章 -----	49
地理学概説Ⅱ(人文) -----	秋本 弘章 -----	49
地誌学概説Ⅰ(日本) -----	秋本 弘章 -----	50
地誌学概説Ⅱ(世界) -----	秋本 弘章 -----	50

## 目 次 (2)

2000～2002年度入学者(全学科)対象

1999年度入学者(言語文化学科・国際関係法学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	新カリキュラム
教職論 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 2
教職論 -----	川村 肇 ----- 3
教育原論 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 4
教育原論 -----	川村 肇 ----- 5
教職心理学 -----	林 潔 ----- 6
教職心理学 -----	森川 正大 ----- 7
教職心理学 -----	横田 雅弘 ----- 8
教育制度 -----	池田 賢一 ----- 9
教育課程論 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 11
教育課程論 -----	安井 一郎 ----- 12
ドイツ語科教科教育法Ⅰ -----	本多 喜三郎 ----- 13
ドイツ語科教科教育法Ⅱ -----	本多 喜三郎 ----- 13
英語科教科教育法Ⅰ -----	秋山 武夫 ----- 14
英語科教科教育法Ⅱ -----	秋山 武夫 ----- 14
英語科教科教育法Ⅰ -----	清水 由理子 ----- 15
英語科教科教育法Ⅱ -----	清水 由理子 ----- 15
英語科教科教育法Ⅰ -----	J.J. DUGGAN ----- 16
英語科教科教育法Ⅱ -----	J.J. DUGGAN ----- 16
英語科教科教育法Ⅰ -----	浅岡 千利世 ----- 17
英語科教科教育法Ⅱ -----	浅岡 千利世 ----- 17
フランス語科教科教育法Ⅰ -----	中村 公子 ----- 18
フランス語科教科教育法Ⅱ -----	中村 公子 ----- 18
社会科教育法Ⅰ -----	秋本 弘章 ----- 19
社会科教育法Ⅱ -----	秋本 弘章 ----- 20
社会科教育法Ⅲ -----	秋本 弘章 ----- 20
地理・歴史科教育法Ⅰ(世界史) -----	古川 堅治 ----- 21
地理・歴史科教育法Ⅱ(地理) -----	秋本 弘章 ----- 21
地理・歴史科教育法Ⅲ(日本史) -----	新井 孝重 ----- 22
公民科教育法Ⅰ -----	小川 一郎 ----- 23
公民科教育法Ⅱ -----	小川 一郎 ----- 23
情報科教育法Ⅰ -----	秋本 弘章 ----- 24
情報科教育法Ⅱ -----	秋本 弘章 ----- 24
道德教育の研究 -----	鳥谷部 志乃恵 ----- 25
道德教育の研究 -----	安井 一郎 ----- 26
特別活動 -----	安井 一郎 ----- 27
特別活動 -----	小川 輝之 ----- 28
教育方法学 -----	町田 喜義 ----- 29
教育方法学 -----	安井 一郎 ----- 30
生徒指導法 -----	小川 一郎 ----- 31
生徒指導法 -----	小川 輝之 ----- 32
学校カウンセリング -----	瀧本 孝雄 ----- 33
学校カウンセリング -----	林 潔 ----- 34
学校カウンセリング -----	森川 正大 ----- 35

総合演習	鳥谷部 志乃恵	36
総合演習	安井 一郎	37
総合演習	秋本 弘章	38
総合演習	渋谷 英章	39
教育実習論(事前・事後指導)	鳥谷部 志乃恵	40
教育実習論(事前・事後指導)	安井 一郎	41
教育実習論(事前・事後指導)	小川 一郎	42
教育実習論(事前・事後指導)	小川 輝之	43

### 教職課程(教科に関する科目)

### 新カリキュラム

日本史概説Ⅰ(古中世)	駒田 和幸	44
日本史概説Ⅱ(近現代)	駒田 和幸	44
外国史概説Ⅰ(東洋史)	兼田 信一郎	45
外国史概説Ⅱ(西洋史)	古川 堅治	47
地理学概説Ⅰ(自然)	秋本 弘章	49
地理学概説Ⅱ(人文)	秋本 弘章	49
地誌学概説Ⅰ(日本)	秋本 弘章	50
地誌学概説Ⅱ(世界)	秋本 弘章	50
法律学概説	野村 武司	52
政治学概説	杉田 隆夫	53
社会学概説	有吉 広介	54
哲学概説	河口 伸	55
倫理学概説	鳥谷部 志乃恵	56
宗教学概説	河口 伸	57

### 教職課程(カリキュラム外科目)

次の科目は、2003年度入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

\* 2つ以上の免許教科を取得する学生を対象とする。

教科教育法特論Ⅰ	安井 一郎	58
教科教育法特論Ⅱ	浅岡 千利世	59

\* 教育実習の事後指導の科目なので、教育実習に参加した学生を対象とする。

教育実習論Ⅱ(事後指導)	鳥谷部 志乃恵	60
教育実習論Ⅱ(事後指導)	安井 一郎	61

\* 介護等体験にかかわる科目なので、介護等体験に参加する学生を対象とする。

介護ボランティアの理論と実践	川野 祐二	62
----------------	-------	----

## 目 次 (3)

### 1999年度以前入学者

### (ドイツ語・英語・フランス語・経済・経営・法律学科)対象

教職課程(教職に関する科目)	旧カリキュラム	
教育原論Ⅰ	鳥谷部 志乃恵	4
教育原論Ⅰ	川村 肇	5
教職心理学Ⅰ	林 潔	6
教職心理学Ⅰ	森川 正大	7
教職心理学Ⅰ	横田 雅弘	8
教育法規	池田 賢一	9
生涯教育論(司書科目「生涯学習概論」と合併)	渋谷 英章	10
ドイツ語科教育法Ⅰ	本多 喜三郎	13
ドイツ語科教育法Ⅱ	本多 喜三郎	13
英語科教育法Ⅰ	秋山 武夫	14
英語科教育法Ⅱ	秋山 武夫	14
英語科教育法Ⅰ	清水 由理子	15
英語科教育法Ⅱ	清水 由理子	15
英語科教育法Ⅰ	J.J. DUGGAN	16
英語科教育法Ⅱ	J.J. DUGGAN	16
英語科教育法Ⅰ	浅岡 千利世	17
英語科教育法Ⅱ	浅岡 千利世	17
フランス語科教育法Ⅰ	中村 公子	18
フランス語科教育法Ⅱ	中村 公子	18
社会科教育法Ⅰ	秋本 弘章	20
社会科教育法Ⅱ	秋本 弘章	20
地理・歴史科教育法(通年)(前期)「歴史」	古川 堅治	21
地理・歴史科教育法(通年)(後期)「地理」	秋本 弘章	21
公民科教育法Ⅰ	小川 一郎	23
公民科教育法Ⅱ	小川 一郎	23
道德教育の研究	鳥谷部 志乃恵	25
道德教育の研究	安井 一郎	26
特別活動	安井 一郎	27
特別活動	小川 輝之	28
教育方法学	町田 喜義	29
教育方法学	安井 一郎	30
生徒指導法	小川 一郎	31
生徒指導法	小川 輝之	32
教育実習Ⅰ(教育実習の事前・事後指導)	鳥谷部 志乃恵	40
教育実習Ⅰ(教育実習の事前・事後指導)	安井 一郎	41
教育実習Ⅰ(教育実習の事前・事後指導)	小川 一郎	42
教育実習Ⅰ(教育実習の事前・事後指導)	小川 輝之	43

## 教職課程(教科に関する科目)

## 旧カリキュラム

日本史概説	----- 駒田 和幸 -----	44
外国史概説Ⅰ	----- 兼田 信一郎 -----	45
外国史概説Ⅱ	----- 熊谷 哲也 -----	46
外国史概説Ⅲ	----- 古川 堅治 -----	47
外国史概説Ⅳ	----- 久慈 栄志 -----	48
地理学概説	----- 秋本 弘章 -----	49
地誌学概説Ⅰ	----- 秋本 弘章 -----	50
地誌学概説Ⅱ	----- 秋本 弘章 -----	50
地理学調査法	----- 松本 栄次 -----	51
社会学概論	----- 有吉 広介 -----	54
哲学概説	----- 河口 伸 -----	55
倫理学概論	----- 鳥谷部 志乃恵 -----	56
宗教学概論	----- 河口 伸 -----	57

## 教職課程(カリキュラム外科目)

次の科目は、2003年度入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

\* 2つ以上の免許教科を取得する学生を対象とする。

教科教育法特論Ⅰ	----- 安井 一郎 -----	58
教科教育法特論Ⅱ	----- 浅岡 千利世 -----	59

\* 教育実習の事後指導の科目なので、教育実習に参加した学生を対象とする。

教育実習論Ⅱ(事後指導)	----- 鳥谷部 志乃恵 -----	60
教育実習論Ⅱ(事後指導)	----- 安井 一郎 -----	61

\* 介護等体験にかかわる科目なので、介護等体験に参加する学生を対象とする。

介護ボランティアの理論と実践	----- 川野 祐二 -----	62
----------------	-------------------	----

## 目 次 (4)

### 全学部学科対象

司 書 課 程			
生涯学習概論（教職科目「生涯教育論」と合併）	----- 渋谷 英章	-----	10
図書館概論	----- 井上 靖代	-----	63
図書館サービス経営論	----- 井上 靖代	-----	64
情報サービス論	----- 福田 求	-----	65
情報検索演習	----- 高柳 敏子	-----	66
情報検索演習	----- 福田 求	-----	67
図書館資料論	----- 井上 靖代	-----	68
専門資料論	----- 植田 喜久次	-----	69
資料組織概説	----- 植田 喜久次	-----	70
資料組織演習	----- 植田 喜久次	-----	71
児童サービス論	----- 井上 靖代	-----	72
図書及び図書館史	----- 井上 靖代	-----	73
資料特論	----- 井上 靖代	-----	74
コミュニケーション論	----- 町田 喜義	-----	75
図書館特論	----- 山本 順一	-----	76

## 目 次 (5)

### 全学部学科対象

司 書 教 諭 課 程			
学校経営と学校図書館	----- 井上 靖代	-----	77
学校図書館メディアの構成	----- 井上 靖代	-----	78
学習指導と学校図書館	----- 井上 靖代	-----	79
読書と豊かな人間性	----- 井上 靖代	-----	80
情報メディアの活用	----- 福田 求	-----	81



**教職課程にかかる科目の全学共通授業科目への読みかえ対応一覧**

学則別表  
IV-1(全学総合科目)

学則別表  
V-1(教職課程授業科目)  
V-2(各学部共通科目)  
V-3(教科または教職に関する科目)

学則別表	科目群	カテゴリー	学則別表	欄	開設授業科目	単位	
IV-1	講義科目	I	V-1	第二欄	教職論	2	
			V-1	第三欄	教育原論	2	
		教職心理学			2		
		教育制度			2		
		V-2	II	日本史概説 I	2		
				日史概説 II	2		
				外国史概説 I	2		
				外国史概説 II	2		
				地理学概説 I	2		
				地理学概説 II	2		
				地誌学概説 I	2		
				地誌学概説 II	2		
				法律学概説 I	2		
				法律学概説 II	2		
				政治学概説 I	2		
				政治学概説 II	2		
				社会学概説 I	2		
				社会学概説 II	2		
				哲学概説 I	2		
				哲学概説 II	2		
		倫理学概説 I	2				
		倫理学概説 II	2				
	宗教学概説 I	2					
	宗教学概説 II	2					
	心理学概説 I	2					
	心理学概説 II	2					
	V-1	III	IV	V-1	第四欄	教育課程論	2
						道徳教育の研究	2
特別活動						2	
教育方法学						2	
生徒指導法						2	
学校カウンセリング	2						
V-1	第五欄	総合演習	2				
V-3		介護ボランティアの理論と実践	2				
読みかえ上限単位数						20	

○ 上記の読みかえは、2003年度入学者から適用する。

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>教職の意義や教師の役割、職務内容に関する学習を通して、教員免許状を取得しようとする教職課程履修者が、教師という仕事はどんな仕事なのか、自分は教師に向いているのだろうか等を多角的に考察する機会をもつことができることを目標とする。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>教師になるために必要な学習内容、教師の仕事の内容、教師に求められている資質・能力、大学における教員養成と教育委員会等の教員採用の実態、教師の待遇や研修等について学習する。</p>	授 業 計 画	1 教職課程で学ぶこと	
	評価方法		レポートの提出を求める。レポートは学習内容のまとまりに応じて提出することになるので、それらのレポートを総合評価する。	2 最近の子どもの生活
			テキスト参考文献	「教職入門 教師への道」吉田辰雄 大森 正 編著 図書文化
			4 教師の仕事（学習指導）	
			5 教師の仕事（生徒指導・教育相談・進路指導）	
			6 教師の仕事（学級経営）	
			7 教師に求められる資質・能力 （これまでの教師には何が求められてきたのか）	
			8 教師に求められる資質・能力 （いま教師には何が求められているのか）	
			9 教師に求められる資質・能力 （学ぶことと教えること）	
			10 教員養成の制度・教職課程の仕組みと内容	
			11 教員の採用・任命	
			12 教員の地位と身分・待遇と勤務条件・研修	

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教職論	担当者	川村 肇

授業目的および講義概要	<p>【授業の目標】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育観を鍛えることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。 2. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点の理解を深める。</p> <p>【参加者に対する要望など】 ・グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けること。</p>	授業計画	1 4月9日 講義の進め方の説明/本学で教職免許状が取得できる理由
	<p>評価方法</p> <p>5回の小レポート(80%)と期末レポート(20%)による。</p> <p>テキスト参考文</p> <p>配布プリント類による/参考文献は適宜紹介する。</p>		2 4月16日 学級崩壊を考える(実態把握)/宿題:学級崩壊への対処について 3 4月23日 学級崩壊を考える(グループ討論)/宿題:少年法改正について 4 5月7日 学級崩壊を考える(グループ討論の発表) 5 5月14日 ADHDを考える(実態把握)/宿題:ADHDから学ぶこと・体罰について 6 5月21日 体罰を考える(グループ討論) 7 5月28日 体罰を考える(体罰に関する理論的問題) 8 6月4日 体罰を考える(実態把握)/宿題:体罰について 9 6月11日 いじめを考える(実態把握)/宿題:いじめへの対処について 10 6月18日 いじめを考える(グループ討論) 11 6月25日 いじめを考える(対処について) 12 7月2日 現代社会と教育問題について

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教職論	担当者	川村 肇

授業目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1 9月24日 講義の進め方の説明/本学で教職免許状が取得できる理由
			2 10月1日 学級崩壊を考える(実態把握)/宿題:学級崩壊への対処について 3 10月8日 学級崩壊を考える(グループ討論) 4 10月15日 学級崩壊を考える(グループ討論の発表)/宿題:少年法について 5 10月29日 ADHDを考える(実態把握)/宿題:ADHDから学ぶこと・体罰について 6 11月5日 体罰を考える(グループ討論) 7 11月12日 体罰を考える(体罰に関する理論的問題) 8 11月19日 体罰を考える(実態把握)/宿題:体罰について 9 11月26日 いじめを考える(実態把握)/宿題:いじめへの対処について 10 12月3日 いじめを考える(グループ討論) 11 12月10日 いじめを考える(対処について) 12 12月17日 現代社会と教育問題について
評価方法			
テキスト参考文			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教育原論 I	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	教育原論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b> 教育の対象は人間であり、人間に限られる。動物の飼育や植物の栽培とは異なる教育の本質と目的について考察を加え理解を深めることを目標とする。成長発達する可能性について考える。また教育実践を規定する人間観についての思想的な考察を通じて、教育の理念・目的・目標等について吟味し、目的概念と教育実践の本質的關係について理解を深める。</p> <p><b>講義概要</b> 次の事項について講義する。 ・教育の概念と基本的構造 ・現代社会における教育目的の構造 ・教育観の基点としての子ども観 ・教育観の展開</p>	授業計画	1 教育を不可欠とする人間の基本的特性について考察する。
			2 教育的な関係の基本 子どもと親（大人）について考察する。
			3 ライフサイクルにおける人間形成の諸相について考察する。
			4 素質説における教育の可能性について考察する。
			5 遺伝説における教育の可能性について考察する。
			6 経験説における教育の可能性について考察する。
			7 環境説における教育の可能性について考察する。
			8 教育の可能性と限界の問題を相互作用説から考察する。
			9 教育の理想や理念を規定する基本的な概念について考察する。
			10 教育目的の諸要因（社会、文化、子ども等）について考察する。
評価方法	2回の小レポートと定期試験の成績を総合的に評価する。		11 わが国の教育目的、目標について教育法規を手がかりに考察する。
テキスト参考文献	『教育と教育観』原聡介他共著 文教書院		12 今日の学校における教育目的の課題について分析考察をする。教育実践における目的意識的思考の役割と意味について考察する。

旧カリ科目名	教育原論 I	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	教育原論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教育原論 I	担当者	川村 肇
新カリ科目名	教育原論	担当者	川村 肇

授業目的および講義概要	<p><b>【授業の目標】</b> 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学びつつ、教育に対する考え方の基礎を養う。</p> <p><b>【授業の概要】</b> 1. 子どもの権利条約や教育基本法等を素材にして、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。</p> <p><b>【参加者への要望等】</b> ・ほぼ毎回、宿題として小レポートを書くこと、資料を読むことを求める。 ・グループ討論を取り入れたいので、遅刻や欠席は避けること。</p>	授業計画	1 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／宿題：「学力論争」への感想文
			2 総合的な学習の時間とは何か（学力論争に触れて）／宿題：総合学習と総合的な学習の時間
			3 戦後の教育課程の歴史と現在（「ゆとり」と詰め込み）／宿題：教育実践から学ぶこと
			4 「わかる」ために必要なこと（生活と科学の結合）／宿題：能力別学級編成について
			5 能力別学級編成の是非を考える（教育基本法第3条）／宿題：能力観について
			6 義務教育・公教育とは何か（憲法第26条）／宿題：教育の義務について・「合校論」を読む
			7 教育における競争と自由の問題を考える／宿題：子どもの保護と自立（参加）について
			8 子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP）／宿題：意見表明権について
			9 子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見）／宿題：サルからヒトへの発達について
			10 子どもに固有の権利と人権との関係／宿題：人権の発達と子どもの権利について
評価方法	宿題（小レポート、50%）と期末試験（50%）による。		11 価値を教えるということ／宿題：子どもの権利委員会からの勧告について
テキスト参考文献	『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介する。		12 まとめ：教育にかかわる諸概念

旧カリ科目名	教育原論 I	担当者	川村 肇
新カリ科目名	教育原論	担当者	川村 肇

授業目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教職心理学I	担当者	林 潔
新カリ科目名	教職心理学	担当者	林 潔

講義目的および講義概要	<p>人間の行動はどのように理解されるのか。そしてそれを、教育活動にどのように応用していくのか。</p> <p>心理学は人間を客観的に理解していきこうという学問です。しかし「こころ」というのは目に見えないものはとらえることができません。そのために、いろいろと理解の仕方が出てきます。</p> <p>そのようにすることから、まず心理学の基本的な人間理解の仕方について紹介します。そして教育の場に必要な基本的なことについて紹介します。</p> <p>すなわち「授業」となる、中高生の特徴と発達上の問題と課題、集団の特徴をとり上げます。</p> <p>質問やレポートの提出には以下のメールも利用して下さい。</p> <p>hayashi@shirayume.ac.jp</p>	授業計画	1 ぼくはどのように行動をするのか。(人間をどう理解するか)	
	評価方法		平常英、中間の小レポートおよび期末試験で評価します。	2 経験が人間をつくる。(行動(学習)理論のみから)
			テキストは使用しません。参考書は随時提示します。	3 ものの仕組みが行動の原動力(認知論から)
テキスト参考文献			4 無意識の心理学(精神分析の立場から)	
			5 精神分析概説(Freudの思想)	
			6 不登校の心理	
			7 対人関係の問題と構成的エンカウンター	
			8 学習活動と学習技能(勉強の仕方の基本はどこにある?)	
			9 先生はクラスのリーダーだ。(リーダーシップのタイプと役割)	
			10 集団討議方式	
			11 授業に残った授業。その分析	
			12 最近の教育心理学の動向。	

旧カリ科目名	教職心理学I	担当者	林 潔
新カリ科目名	教職心理学	担当者	林 潔

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
	評価方法		2
			3
テキスト参考文献			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教職心理学Ⅰ	担当者	森川 正大
新カリ科目名	教職心理学	担当者	森川 正大

講義目的および講義概要	<p>教育は、人間の「発達」及び「学習」の過程にかかわるはたらきである。この科目は、教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学ぶことを目標とする。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>①教育心理学の課題 ②発達過程の諸原理 ③学習過程の諸原理 ④生徒の個人差とアイデンティティの形成 ⑤生徒理解のポイントとかわり方 ⑥教師の役割</p>	授業計画	1 教育心理学の課題
			2 人間の成長と発達の原理
			3 発達段階と発達課題
			4 児童期までの発達
			5 青年期の発達
			6 社会性・道徳性の発達
			7 学習の原理
			8 内発的動機づけと学習意欲
			9 個人差と教育
			10 アイデンティティの形成
評価方法	出席状況、授業中に課す提出物、および期末レポートを総合して評価する。		11 教育測定と評価
テキスト参考文献	テキストは用いない。プリントによる。参考文献は、必要に応じて指示する。		12 教師の自己点検／まとめ

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教職心理学 I	担当者	横田 雅弘
新カリ科目名	教職心理学	担当者	横田 雅弘

講義目的および講義概要	<p>この授業は二つの狙いをもつ。第一の狙いは、実際に教職についたときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。専門知識の為には文献を紹介する。</p> <p>第二の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをよりのばしていかなければならないかを知ることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションを行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 発達と教育 (1) : 発達観と教育、認知的発達
			3 発達と教育 (2) : 道徳性の発達、知能の発達と創造性<自分の発達観と教育観を知る>
			4 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、アイデンティティ<自分のアイデンティティを考える>
			5 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介<自分の動機づけの傾向について考える>
			6 心理テスト (東大版エゴグラム) の記入とその結果を理解するための交流分析の講義
			7 交流分析の講義と自己分析
			8 ディスカッション=教師としての自分の強みと弱みの自己分析
			9 学校不適応と精神衛生 : 登校拒否、暴力、いじめなど
			10 カウンセリングの基礎知識 (1)
			11 カウンセリングの基礎知識 (2)
			12 知識に関するテストの実施、および自己分析のレポート (A4 ワープロ 1 枚) の提出
評価方法	知識を問うテスト及び自己分析のレポート (持込不可。知識のテストで要 50%以上取得)		
テキスト参考文献	ポイント教育学『教育心理学』岸本弘編著、学文社。心理テスト (TPI) 代金 250 円必要。		



旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教育法規	担当者	池田 賢一
新カリ科目名	教育制度	担当者	池田 賢一

講義目的および講義概要	<p>教育が制度としてつくり上げられていく過程を歴史的に学び、また、その制度を支える諸法令の基本的考え方も学んだ上で、現代日本の教育改革(の動向)を批判的に検討していく。とくに、その制度上の問題点を、受講生各人の学校体験を生かしながら検討し、各人が自分らの制度改革案を考えていく基礎を身につけることを目的とする。したがって、受講生は、つねに、新聞等から教育に関する最新情報を得ておくこと。講義は、まず「教育制度」の定義から検討し、教育を受ける「権利」がどのように保障されるのか、「自由」や「平等」という概念とともに検討を加えていく。その後、明治期から今日までの日本の教育(制度)改革がどのように動いてきたのかをみる。そして、「学力低下論」とそれへの対応として特徴づけられる現在進行中の改革を、具体的に口今味していく。(大きく分けると、前半が歴史や法令に関する学習、後半が現在の具体的な問題の分析となる。)</p>	授 業 計 画	1 「教育」と「教育制度」のちがひ (教育制度の定義と問題点)	
	評価方法		試験を行う。(もちろん可) 出席は取らない。	2 義務教育制度の歴史 (課程主義と年齢主義)
			テキスト参考文献	指定しない。
		4 学習指導要領の変遷 (含、米国教育使節団報告書)		
			5 同上(つづき)	
			6 明治期の教育改革(概略)	
			7 教育における「平等」とは何か。 (学歴問題をを中心に)	
			8 教員-生徒のコミュニケーション・プロセス (「平等」を考えるための視点として)	
			9 現在の教育改革の諸問題① (障害児教育を中心に)	
			10 同上② (外国人生徒の教育問題)	
			11 同上③ (市場原理と「平等」「自由」)	
			12 教育制度改革の方向性 (念のためとして)	

旧カリ科目名	教育法規	担当者	池田 賢一
新カリ科目名	教育制度	担当者	池田 賢一

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	生涯教育論	担当者	渋谷 英章
司書科目名	生涯学習概論	担当者	渋谷 英章
講義目的および講義概要	<p>講義目的 「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることこそが、生涯学習社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性について追究する。</p> <p>講義概要 まず、現在「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校のあり方を考える。その上で、現在の日本の生涯学習の現状と課題を分析する。</p>	授業計画	1 生涯学習社会とは
			2 ポールラングランの「生涯教育論」(1)
			3 ポールラングランの「生涯教育論」(2)
			4 生涯教育と生涯学習
			5 社会教育の定義と特質
			6 ペダゴジーとアンドラゴジー
			7 高齢化・少子化と生涯学習
			8 グローバリゼーションと生涯学習
			9 ノンフォーマル教育
			10 学社連携と学社融合 (1)
			11 学社連携と学社融合 (2)
			12 試験
評価方法	「生涯学習体験レポート」(必須)と「最終試験」(必須)をもとに評価する。		
テキスト参考文献	指定しない。適宜プリントを配布。ウェブからのダウンロードを指示することもある。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育課程論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<b>講義の目標</b> 学校において展開される教育課程についての理解を深めるとともに、教育課程と教育方法との関係を踏まえながら、学習者に対応して柔軟に教育課程編成や運営できるような基礎力を養うことを目的とする。	授業計画	1 教育課程の意義
	<b>講義概要</b> 次の事項について取り扱い ・教育課程の基礎概念 ・教育課程の選択と配列 ・教育課程の類型 ・教育課程の展開 ・わが国の教育課程の編成とその基準 ・教育課程政策（学習指導要領改訂の流れ） ・欧米の教育課程政策について		2 教育課程と教育方法の関係
			3 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム
評価方法	定期試験の結果から判断する		4 教育課程の選択と配列
テキスト参考文献	『新制教育原理』名倉英三郎編、八千代出版 中学校、高等学校の学習指導要領は必ず入手		5 形式陶冶と実質陶冶
			6 陶冶材としての文化と経験
			7 教育課程の類型（コア・カリキュラム等について）
			8 わが国の教育課程
			9 教育課程改革の変遷（1）
			10 " " (2)
			11 教育課程の運営と課題
			12 欧米の教育課程政策について

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育課程論	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
評価方法			4
			5
テキスト参考文献			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本稿では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題、諸外国における教育課程改革の動向等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>	授業計画	1 教育課程とは何か
			2 教育課程の構造と類型
			3 教育課程編成の理論と方法
			4 学習指導要領と教育課程(1)
			5 学習指導要領と教育課程(2)
			6 新教育課程の検討
			7 総合学習の可能性
			8 生活教育の系譜
			9 教育課程の評価
			10 教育課程と学力問題
			11 諸外国における教育課程改革の動向
			12 教育課程研究の今日的課題
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		
テキスト参考文献	講義の中で紹介する		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧科目名	ドイツ語科教育法Ⅰ	担当者	本多喜三郎
新科目名	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	本多喜三郎
講義目的および講義概要	ドイツ語教授法の歴史的変遷をドイツ語の原文テキストで概観することにより、教授法に関する基礎的知識と専門用語を習得させるのが目的である。 講義はテキストの主要部分の要約を中心に進める。毎回、予め指定した受講生に翻訳の宿題を課す。	授業計画	1 オリエンテーション
			2 Einleitung
			3 Die Grammatik-Übersetzungs-Methode(1)
			4 Die Grammatik-Übersetzungs-Methode(2)
			5 Die direkte Methode(1)
			6 Die direkte Methode(2)
			7 Die audiolinguale Methode
			8 Die audiovisuelle Methode
			9 Die vermittelnde Methode
			10 Die Entwicklung der kommunikativen Didaktik
			11 Der interkulturelle Ansatz
			12 まとめ
評価方法	学期末試験の結果と出席状況を主たる判断材料とする。		
テキスト参考文献	<b>G. Neuner/H. Hunfeld: Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts</b>		

旧科目名	ドイツ語科教育法Ⅱ	担当者	本多喜三郎
新科目名	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	本多喜三郎
講義目的および講義概要	教壇実習により教授法の具体的なテクニックを習得することが目的である。 受講者全員が、1～2回の模擬授業を行い、受講生同士で互いに批判し合う。	授業計画	1 オリエンテーション
			2 模擬授業による教授法の研究
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 ドイツ語教授法のまとめ
評価方法	教壇実習、出席状況、レポート等による。		
テキスト参考	矢羽々 崇: Keikos Praktikum in München		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	英語科教育法Ⅰ	担当者	秋山 武夫
新カリ科目名	英語科教科教育法Ⅰ	担当者	秋山 武夫
講義目的および講義概要	講義の目標 英語を教えるとはどういうことなのか、英語教育はどうあるべきか、理想の英語教育はどうあるべきかなどを、出来るだけ現場をふまえて考えていきます。	授業計画	1. 序論。英語教育のあるべき理想について語ります。
	講義概要 理論を主として授業のありかたを概説し、評価の方法、教案の作り方等を講義します。 Ⅰ、Ⅱの両方を受講することが望ましい講義です。		2. 過去の日本において行なわれていたさまざまな教育法、歴史を述べます。
	受講者への要望 現代の日本の英語教育界には、若い有能な教師が必要です。鋭意、実力を養い、実際に教員になって、新風を吹きこむ気概を持って受講してほしい。		3. パーマーの教育法について。
			4. パーマーの教育法について。
評価方法	この講座は「教職に関する科目」ですので、出席を重視します。2回欠席したら、評価Aは出しません。遅刻2回は欠席1回とみなします。		5. フリースの教育法について。
テキスト	「英語教育学概論」(金星堂)		6. フリースの教育法について。
			7. フリースの教育法について。
			8. 外人教師とのチーム授業について。
			9. 測定と評価。
			10. 教案の作り方(中学)。
			11. 教案の作り方(高校)。
			12. Videoによる授業の研究。

旧カリ科目名	英語科教育法Ⅱ	担当者	秋山 武夫
新カリ科目名	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	秋山 武夫
講義目的および講義概要	講義の目標 英語科教育法Ⅰを受講した人、またはしている人を対象として、その人たちが実技、つまり実際に授業を行う時間です。教育実習、教員採用試験に役立つ講義にするつもりです。 Ⅰ、Ⅱの両方を受講することが望ましい講義です。	授業計画	1. Videoによる授業学習
	講義概要 全員に授業をしてもらいます。授業をすることがどんなに難しいかわかってもらいます。また、授業をすることが、どんなに教育実習に役立つか経験してもらいます。		2. 各人の授業実習
	受講者への要望 現代の日本の英語教育界には、若い有能な教師が必要です。鋭意、実力を養い、実際に教員になって、新風を吹きこむ気概を持って受講してほしい。		3. 各人の授業実習
			4. 各人の授業実習
評価方法	この講座は「教職に関する科目」ですので、出席を重視します。2回欠席したら、評価Aは出しません。遅刻2回は欠席1回とみなします。		5. 各人の授業実習
テキスト	なし。		6. 各人の授業実習
			7. 各人の授業実習
			8. 各人の授業実習
			9. 各人の授業実習
			10. 各人の授業実習
			11. 各人の授業実習
			12. 各人の授業実習

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	英語科教育法 I	担当者	清水 由理子
新カリ科目名	英語科教科教育法 I	担当者	清水 由理子
講義目的および講義概要	<p>言語教育についての考え方の変遷をたどり、どのような試みが為されてきたかを顧み、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[講義概要]</p> <p>新学習指導要領実施となり、特に今までの文法中心からコミュニケーション能力の育成を重視した授業形態が求められている。さまざまな変化に伴い、教師として考え方や教え方も変えなければならない。</p> <p>講義と合わせてビデオ教材などを用いながら、語学教育に関する基本的な考え方を紹介する。それを基に現状にどのように対処していけばよいか考えてほしい。</p>	授業計画	1 授業の進め方、研究課題について 英語教師に望まれること
			2 日本における英語教育—変遷と現状—
			3 主な教授法の特徴 ①
			4 主な教授法の特徴 ②
			5 主な教授法の特徴 ③
			6 主な教授法の特徴 ④
			7 Audio Visual Aids ①
			8 Audio Visual Aids ②
			9 Testing and Evaluation ①
			10 Testing and Evaluation ②
			11 Teaching Plan ①
			12 Teaching Plan ②
評価方法	研究レポートおよび期末試験による。レポートの課題は4月の授業で指示する。		
テキスト参考文献	テキストは特に定めない。参考文献は授業時に紹介する。		

旧カリ科目名	英語科教育法 II	担当者	清水 由理子
新カリ科目名	英語科教科教育法 II	担当者	清水 由理子
講義目的および講義概要	<p>[講義概要]</p> <p>研究発表の他、学習指導案を作成し、それをもとに模擬実習をする。実践と討論を中心に進める。</p>	授業計画	1 授業の進め方、レポート課題について Grammar の指導
			2 Listening and speaking の指導
			3 Reading の指導
			4 Writing の指導
			5 模擬実習①
			6 模擬実習②
			7 模擬実習③
			8 模擬実習④
			9 模擬実習⑤
			10 模擬実習⑥
			11 模擬実習⑦
			12 まとめ
評価方法	平常点、レポート（研究発表レポート、指導案作成など）および期末試験による。		
テキスト参考文献	テキストは特に定めない。参考文献は授業時に紹介する。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	英語科教育法Ⅰ	担当者	J.J. DUGGAN
新カリ科目名	英語科教科教育法Ⅰ	担当者	J.J. DUGGAN

講義目的および講義概要	<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based.</p> <p>As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>	授業計画	1	1. Course description and explanation. Assignment.	
	評価方法		Grades will be assessed based on in-class participation, a number of assignments, and a final quiz based on the text and lecture.	2	2. Theme: <i>The role of the teacher</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp. 7-18
				3	3. Theme: <i>The influence of the teaching situation</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.19-24
テキスト参考文献	Underwood, M. <i>Effective Class Management</i> . Longman. Handouts.	4	4. Theme: <i>The aspect of the classroom</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.25-57		
		5	5. Theme: <i>The relationship of teacher, classroom and situation</i> . Lecture. Discussion. Assignment.		
		6	6. Theme: <i>Considering "Why?"</i> . Approach. Lecture. Discussion.		
		7	7. Theme: <i>Considering "How?"</i> -Traditional Methods. Lecture. Discussion. Handouts.		
		8	8. Theme: <i>Considering "How?"</i> -New Methods. Lecture. Discussion. Handouts.		
		9	9. Theme: <i>Considering "What?"</i> -Technique. Lecture. Discussion.		
		10	10. Theme: <i>Planning a syllabus</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Longman text pp.58-79		
		11	11. Theme: <i>Preparing a syllabus</i> . Lecture. Discussion. Assignment.		
		12	12. First term summary & review. Assessment.		

旧カリ科目名	英語科教育法Ⅱ	担当者	J.J. DUGGAN
新カリ科目名	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	J.J. DUGGAN

講義目的および講義概要	<p>The purpose of this course is to, based on a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based presented in the first term course, introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first term, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>	授業計画	1	1. Second term course description and set-up. Review of first term material.	
	評価方法		Grades will be assessed based on in-class participation (and therefore attendance), and a presentation and / or a final paper.	2	2. Theme: <i>Traditional Teaching Techniques</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 3-30. Presentations
				3	3. Theme: <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.41-61.
テキスト参考文献	Hubbard, P. et.al. <i>A Training Course for TEFL</i> . Oxford University Press. Handouts.	4	4. Theme: <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary, Part 2</i> . Discussion.		
		5	5. Theme: <i>Teaching Writing &amp; Composition</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.61-79.		
		6	6. Theme: <i>Teaching Writing &amp; Composition</i> . Discussion.		
		7	7. Theme: <i>Teaching Listening</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.79-95.		
		8	8. Theme: <i>Teaching Listening, Part 2</i> . Discussion.		
		9	9. Theme: <i>Teaching Oral Communication</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.198-205.		
		10	10. Theme: <i>Teaching Oral Communication, Part 2</i> . Presentations. Discussion.		
		11	11. Theme: <i>Teaching Oral Communication &amp; Pronunciation</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.207-239. Presentations		
		12	12. Second term summary & review.		



旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	英語科教育法 I	担当者	浅岡 千利世
新カリ科目名	英語科教科教育法 I	担当者	浅岡 千利世
講義目的および講義概要	言語教育に関するさまざまな側面を理解した上で日本の現在の教育現場という視点からこれからの英語教育を考える。授業では言語教育に関する基本的な考え方やアプローチ、評価方法やレessonプラン作成法などを紹介する。 発表や討論への積極的参加を通して、自分なりの理想の教師像を見つけて欲しい。	授 業 計 画	1 Introduction
			2 Teaching English as a foreign language
			3 Approaches and methodologies
			4 Syllabus and teaching guidelines
			5 Textbooks
			6 Lesson plans
			7 Lesson plans
			8 Team teaching
			9 Testing
			10 Assessment
			11 Global education
			12 Early education and bilingualism
評価方法	出席、授業への貢献、レessonプラン（日本語）、英語でのジャーナル（毎週提出）、期末試験を総合して評価する。		
参考 文献	『新学習指導要領に基づく英語科教育法の構築と展開』（現代教育社）青木昭六編		

旧カリ科目名	英語科教育法 I I	担当者	浅岡 千利世
新カリ科目名	英語科教科教育法 I I	担当者	浅岡 千利世
講義目的および講義概要	言語教育に関するさまざまな側面を理解した上で日本の教育現場という視点からこれからの英語教育を考える。  I をふまえた上で、言語の4技能に関する実践的な指導方法を学び、模擬授業や討論を中心に進める。模擬授業は全員が行い、ビデオに録画する。ビデオを用いて教員との1対1の復習セッション(授業外)と自己評価を行う。  I とII と両方受講することが望ましい。	授 業 計 画	1 Introduction
			2 Classroom language
			3 Model lesson plan in English
			4 Lesson planning
			5 Lesson planning
			6 Micro-teaching 1
			7 Micro-teaching 1
			8 Micro-teaching 1
			9 Feedback session
			10 Micro-teaching 2
			11 Micro-teaching 2
			12 Micro-teaching 2
評価方法	出席、授業への貢献、レessonプラン（英語）、レessonプランに基づいた模擬授業と自己評価を総合して評価する。		
参考 文献	ホームページ <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0054/">http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0054/</a> 参考文献 <i>Teaching by Principles, H.D. Brown, Prentice Hall Regents</i>		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	フランス語科教育法Ⅰ	担当者	中村 公子
新カリ科目名	フランス語科教科教育法Ⅰ	担当者	中村 公子
講義目的および講義概要	<p>&lt;講義目的&gt;</p> <p>言語教育に携わっていく上で知っていなければならない基礎的な知識の学習を通して教育実習に必要な事柄を学び、日本におけるフランス語教育および言語教育の現状とこれらについて考える。</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方、など理論的側面を紹介する。</p> <p>主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。</p>	授業計画	1 Introduction
			2 コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン
			3 言語教育における教授法の歴史的変遷 1
			4 言語教育における教授法の歴史的変遷 2
			5 教材分析 1
			6 教材分析 2
			7 教室活動 1
			8 教室活動 2
			9 教材、教具の種類とその選択について
			10 授業実践のための準備とまとめ 教案の書き方
			11 評価について
			12 まとめ
評価方法	出席と授業参加態度重視。授業中の発表、課題、レポートなどを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて授業中に指示する。		
			順番は多少、前後することがある。

旧カリ科目名	フランス語科教育法Ⅱ	担当者	中村 公子
新カリ科目名	フランス語科教科教育法Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的および講義概要	<p>&lt;講義目的&gt;</p> <p>(実際に教育実習を行うことを前提とする。)</p> <p>教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点、問題点などについて学び考える。</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>模擬授業の実践。教案を作成し実際に授業を行って、授業を行う上での困難や問題点とその対処法について扱う。</p> <p>一回の模擬授業は短時間でも、一人数回はできるようにする予定。また、授業観察の際の注意点やよりよい授業を行うために各自ができること、実際の教育実習の時の注意点などについても授業で扱う。</p>	授業計画	1 Introduction : 模擬授業のための準備
			2 模擬授業
			3 模擬授業
			4 模擬授業
			5 模擬授業
			6 模擬授業
			7 模擬授業
			8 模擬授業
			9 模擬授業
			10 模擬授業
			11 模擬授業
			12 まとめ：教育実習のための注意点
評価方法	出席と授業参加態度重視。模擬授業の教案と準備、模擬授業、課題などを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて授業中に指示する。		
			受講者の人数により実習の回数と実習時間を決める。

旧カリ通科科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科教育の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p>	授業計画	1 社会科教員の 1 日
			2 社会科成立の背景と意義
			3 社会科の教育課程とその変化 (1)
			4 社会科の教育課程とその変化 (2)
			5 社会科の教育内容 (1) 地理的分野
			6 社会科の教育内容 (2) 歴史的分野
			7 社会科の教育内容 (3) 公民的分野
			8 社会科の今日的課題 (1) 国際化
			9 社会科の今日的課題 (2) 社会の変化
			10 社会科の今日的課題 (3) 環境
			11 社会科の今日的課題 (4) 人権
			12 まとめ
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『中学校学習指導要領解説(平成 10 年 12 月) 社会編』大阪書籍ほか		

旧カリ通科目名	*****	担当者	*****
---------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	社会科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための基礎的な事項を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、その教授法を学ぶ。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。</p> <p>また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p>	授業計画	1 社会科の目標と身につけるべき力
			2 学習と評価
			3 講義式授業の特質
			4 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍
			5 教材の収集と利用（2）視聴覚教材
			6 教材の収集と利用（3）インターネット等
			7 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導
			8 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表
			9 シミュレーション教材の利用
			10 臨地学習の意義と計画
			11 臨地学習の実践
			12 まとめ
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に提出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		

旧カリ科目名	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p>	授業計画	1 学校カリキュラムの中の社会科
			2 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画
			3 地理的分野の内容構成
			4 歴史的分野の内容構成
			5 公民的分野の内容構成
			6 学習指導案の作成と模擬授業の準備
			7 模擬授業（1）
			8 模擬授業（2）
			9 模擬授業（3）
			10 模擬授業（4）
			11 模擬授業（5）
			12 まとめ
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に提出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		

旧カリ通年科目名	地理・歴史科教育法	担当者	古川 堅治 ・ 秋本 弘章
----------	-----------	-----	---------------

旧カリ科目名	地理・歴史科教育法「歴史」(通年)	担当者	古川 堅治
新カリ科目名	地理・歴史科教育Ⅰ(世界史)	担当者	古川 堅治

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義目標&gt;「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で、「歴史」を教えることの「力の重大さ」を認識する必要がある。それらを前提に現代の歴史学の成果と歴史教育の関連、歴史教育の沿革と具体的な教授法などを取り上げながら、歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講座のねらいである。</p> <p>&lt;講義概要&gt;講義ではプリントを配布しながら概説的に説明していくが、現在話題となっている教科書問題や諸外国との歴史の共通認識の問題についても考えていきたい。授業はア・ホームな雰囲気で行なうことに心がけたいので、受講生も積極的に発言等に努め、授業に参加していただきたい。なお、後半3回は「模擬授業」の回をもうけ、各回とも一人ずつそれぞれ自分の好きなテーマを選んで「授業」(50分)を行なってもらう。</p>	授業計画	1 「はじめに：なぜ歴史を学ぶのか？」 歴史学の課題、歴史研究と歴史教育の関係
	2 「歴史教育の方法Ⅰ」 映像資料を使った学習と史・資料の操作		
	3 「歴史教育の方法Ⅱ」 人物の採り上げ方と地域学習		
4 『『世界史A』と『世界史B』の扱い方』 A科目とB科目の意味と授業構成			
5 「歴史教育におけるヨーロッパ史Ⅰ」 ヨーロッパ史教育の今目的意味と広域的な地域世界			
6 「歴史教育におけるヨーロッパ史Ⅱ」 国際歴史教科書対話(ドイツの例)：VIDEO			
7 「歴史教育におけるアジア史Ⅰ」 日韓教科書論争と日本のアジア認識：VIDEO			
8 「歴史教育におけるアジア史Ⅱ」 世界史の中の東アジアと歴史認識の共通化問題			
9 「まとめ：歴史の怖さと面白さ」 歴史と政治、謎解きの面白さ			
10 「模擬授業Ⅰ」			
11 「模擬授業Ⅱ」			
12 「模擬授業Ⅲ」			
評価方法	基本的にはレポートにより評価するが、出席点も加味する。「模擬授業」希望者はその発表をもってレポートの代わりとする。		
テキスト参考文献	テキストは使用することはない。参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。		

旧カリ科目名	地理・歴史科教育法「地理」(通年)	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	地理・歴史科教育法Ⅱ(地理)	担当者	秋本 弘章

講義目的および講義概要	<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p>	授業計画	1. 地理教育の目標
			2. 日本の地理教育の歩み
			3. 諸外国の地理教育
		4. 地理的見方・考え方について	
		5. 地図・地球儀の扱い方(1)	
		6. 地図・地球儀の扱い方(2)	
		7. 野外観察・調査の意義と計画	
		8. 野外観察の実践	
		9. 系統地理の学習指導	
		10. 地誌の学習指導	
		11. 主題的方法の学習指導	
		12. 授業環境の整備、学習指導計画と学習指導案	
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』実教出版ほか		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	地理・歴史科教育法Ⅲ（日本史）	担当者	新井 孝重

講義目的および講義概要	日本史（高校日本史）授業で、とくに教えにくいところを絞って、講義する。  ・律令制の解体 ・荘園制の成立 ・荘園制の衰退 ・荘園制の消滅、太閤検地 ・中世の封建制と近世の封建制	授 業 計 画	1	[奈良時代] 新しい土地政策
			2	[平安時代] 荘園の発展①
			3	荘園の発展②
			4	[鎌倉時代] 武家政権の成立
			5	鎌倉幕府の衰退①
			6	鎌倉幕府の衰退②
			7	[室町時代] 守護大名 民衆の成長
			8	戦国大名① 土一揆の激発
			9	分国法 一向一揆
			10	戦国大名②
			11	鉄砲
			12	信長 封建社会の確立
評価方法	試験			
テキスト参考文献	なし。随時プリントを配布します。			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法				
テキスト参考文献				

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 一郎
新カリ科目名	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 一郎

講義目的および講義概要	<p>1. 講義目的</p> <p>公民科誕生(前回改訂1989)から10年余 今回の改訂で公民科の役割は大きく変っている。国際化、情報化への対応や価値観の多様化、個性化、個別化が進んでいる。公民的資質の育成を目指して教育方法など創意工夫が必要である。</p> <p>2. 講義概要</p> <p>戦前の公民教育と対比し、戦後当初の公民教育について先ず認識させ、公民科、各科目の目標を十分理解させ、現代社会において公民の資質を養うことの必要性とその育成について理解させる。また、実技的に習熟させるため、模擬授業を行う。</p>	1	年間の公民科教育法の概要 現代における公民科教育の役割と必要性
		2	戦後当初の公民教育の構想(答申等)
		3	公民の概念や公民としての資質
		4	代表的な指導法や学力について
		5	公民科の誕生と平成11年の改訂
		6	公民科の目標、内容と構造
		7	「現代社会」「倫理」「政治、経済」について
		8	年間授業計画の作成
		9	授業の指導案の作成
		10	模擬授業
		11	模擬授業
		12	公民教育が直面する課題について
評価方法	指導案の提出、レポートの提出、出席状況など判断材料にする。		
テキスト参考文献	文部省「高等学校学習指導要領解説 公民編」220+税 <参考> 小川一郎著「在り方なき指導の理論と実践」2000、清水書院 実教出版 発行		

旧カリ科目名	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 一郎
新カリ科目名	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 一郎

講義目的および講義概要	<p>1. 講義目的</p> <p>公民科教育法Ⅱでは、目標、内容に対応した指導方法を研究し、実際に模擬授業などを行い、実践的指導力を身に付けさせる。また、表現力や判断力を身に付けさせるため、ディベートの授業など新しい指導方法を開発する意欲と実践力を培う。</p> <p>2. 講義概要</p> <p>実際に授業を行う上で必要な指導方法に重点を置いて授業を進め、体験的に身につけるようにする。</p> <p>①問題解決学習 ②グループ学習 ③ディベート などを学習する</p>	授業計画	1	公民科教育法Ⅱは、公民科教育法Ⅰの実践編であること。
			2	新しい学力観における関心・意欲・態度の育成や、表現力、判断力の伸長と問題解決学習について
			3	グループ学習と表現力の育成について
			4	公民科の指導案の作成
			5	作成した指導案について意見交換、講評
			6	模擬授業の実施、自己批判、意見交換、講評
			7	同上
			8	同上
			9	論理的な思考力や表現力を育成する授業方法について
			10	ディベートの実施、ディベート実施の準備
			11	ディベートの実施
			12	公民科教育法についてこれまでの講座の総括。特に公民科教育法の課題について
評価方法	授業案、レポート、ディベートの参加状況、出席状況などにより評定する。			
テキスト参考文献	文部省「高等学校学習指導要領解説 公民編」220+税 <参考> 小川一郎著「在り方なき指導の理論と実践」清水書院、2000、 実教出版 発行			

旧カリ通科目名	*****	担当者	*****
---------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。	授業計画	1. オリエンテーション（授業の心構え、獨協大学における情報機器の取り扱い方など）
			2 情報科成立の背景
			3 普通教科「情報」の目的
			4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色
			5 専門教科「情報」の目的
			6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略
			7 情報科教材研究（1）
			8 情報科教材研究（2）
			9 情報科教材研究（3）
			10 情報科教材研究（4）
			11 情報科教材研究（5）
			12 まとめ
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画、学習指導計画の作成、授業参観、模擬授業を予定している。 なお、授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。	授業計画	1 普通教科「情報」の特性と年間・単元学習指導計画
			2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画
			3 「情報」学習指導の実際（実践校の見学）
			4 「情報」学習指導の実際（実践校の見学）
			5 「情報」学習指導の実際（実践校の見学）
			6 学習指導案の作成
			7 学習指導案の作成
			8 模擬授業（1）
			9 模擬授業（2）
			10 模擬授業（3）
			11 模擬授業（4）
			12 まとめ
評価方法	中等教員の免許課程であることから、授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。		
テキスト参考文献	文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		



旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>人間形成における道德教育の必然性についての理解を深め、学校教育における道德の指導の特質を踏まえながら、「道德の時間」において指導することができるための基礎的な力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>次の諸問題について取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道德とは何か</li> <li>・道德をどう教えるか</li> <li>・こころの発達と道德教育</li> <li>・道德教育の歴史</li> <li>・学校における道德教育の実践</li> <li>・道德の指導案の構想</li> </ul>	授業計画	1 現代社会と道德教育の課題
			2 道德とは何か
			3 道德は教えられるのか
			4 善さとは何か
			5 道德性の発達について
			6 戦前までの道德教育について
			7 戦後の道德教育について (小レポート提出予定)
			8 学校における道德教育の構造 (1)
			9 " (2)
			10 「道德の時間」における道德指導の内容と方法
評価方法	評価は授業の中で指示する小レポートの提出と定期試験によって総合的に判断する。		11 「道德の時間」の指導案の構想(1)
テキスト参考文献	『共にまなぶ道德教育』改訂版 村井実・遠藤克弥編著 川島書店 天野貞祐全集 栗田出版会		12 「道德の時間」の指導案の構想(2) (小レポート提出予定)

旧カリ科目名	道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	道德教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
旧カリ科目名	道德教育の研究	担当者	安井 一郎
新カリ科目名	道德教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的 および 講義概要	講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成において極めて重要な役割を果たす道德教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。	授業計画	1 自分の道德教育体験を振り返る
	講義概要 道德教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本稿では、道德教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的な理解を得たうえで、道德について考えるうえでの基本的な問いを「教育において生命のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道德教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道德教育とは何かについての検討を加える。		2 道德とは何か
			3 学校教育における道德教育の位置と役割(1)
	4 学校教育における道德教育の位置と役割(2)		
	5 道德教育の歴史的変遷(1)		
	6 道德教育の歴史的変遷(2)		
	7 教育における生命の意味		
	8 生命に対する畏敬の念(1)		
	9 生命に対する畏敬の念(2)		
	10 学習指導案の作成(1)		
	11 学習指導案の作成(2)		
	12 道德教育の今日的課題		
評価方法	出席、レポート、試験の総合的評価		
テキスト 参考 文献	講義の中で紹介する		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的 および 講義概要		授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法			
テキスト 参考 文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	特別活動	担当者	安井 一郎
新カリ科目名	特別活動	担当者	安井 一郎
講義目的 および 講義概要	<p>講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本稿では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの主体的、実践的、総合的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p>	授業計画	1 自分の特別活動体験を振り返る
			2 現代の人間形成と特別活動(1)
			3 現代の人間形成と特別活動(2)
			4 特別活動の歴史の変遷(1)
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		5 特別活動の歴史の変遷(2)
			6 教育課程における特別活動の位置と役割(1)
テキスト 参考 文献	山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、 その他は講義の中で紹介する		7 教育課程における特別活動の位置と役割(2)
			8 学級活動・ホームルーム活動
			9 児童会活動・生徒会活動
			10 クラブ活動・部活動
			11 学校行事
			12 特別活動の今日的課題

旧カリ科目名	特別活動	担当者	安井 一郎			
新カリ科目名	特別活動	担当者	安井 一郎			
講義目的 および 講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1			
			2			
			3			
			4			
			5			
			6			
			7			
			8			
			9			
			10			
			評価方法			11
						12
テキスト 参考 文献						

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	特別活動	担当者	小川 輝之
新カリ科目名	特別活動	担当者	小川 輝之

講義目的および講義概要	<p>学校教育における「特別活動」の歴史的変遷と意義、基本的性格について学ぶとともに、学習指導要領を中心に、「特別活動」の目標や内容、方法等について検討する。また、「特別活動」に関わる今日の諸課題を取り上げ、課題解決に向けての方策や指導の在り方等について検討する。</p> <p>関係図書、諸資料等を用いて講義中心の授業を行うが、適宜ディベートや発表会等を取り入れなど、学生諸君の主体的な参加を促すよう工夫したい。</p>	授業計画	<p>1 特別活動の歴史的変遷（1週）</p> <p>2 特別活動の意義と基本的性格（2～4週）</p> <p>①特別活動の教育的意義</p> <p>②特別活動と道德教育</p> <p>③特別活動と総合的な学習の時間</p> <p>④特別活動と各教科科目</p> <p>⑤特別活動の評価</p> <p>3 特別活動の目標と内容（5～9週）</p> <p>①特別活動の目標</p> <p>②特別活動の内容</p> <p>③特別活動の指導計画の作成</p> <p>4 特別活動を巡る諸課題（10～12週）</p> <p>①特別活動の実践・研究事例</p> <p>②特別活動の実践上の課題</p>
	評価方法		試験、発表、レポート、出席状況等により総合的に評価する。
	テキスト参考文献		テキスト 文科省 「高等学校学習指導要領解説特別活動編」 東山書房 120円

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教育方法学	担当者	町田 喜義
新カリ科目名	教育方法学	担当者	町田 喜義

講義目的および講義概要	<p>「教育の方法と技術」、「教師の役割」、「教師が学ぶべきこと」などの視点を確立すること。</p> <p>教育内容（メッセージ）、方法・技術（メディア）、評価・測定（フィードバック）など、コミュニケーションの視点を導入する。なぜならば、教育はコミュニケーションの一形態だからである。「諸君が何を、どう学ぶか」「そして教師を目指すためにどう変わるか」を主題にする。</p>	授業計画	1 「コミュニケーション」の概念を理解する。
			2 「コミュニケーション」と「教育」の関係を理解する。
			3 「メディア」の概念を理解し、「学習情報」との相互作用を理解する。
			4 教育メディアの種類・機能・利用について理解する。
			5 各自のコミュニケーション能力を分析する。
			6 「教師」を討議する。
			7 教材研究とは何か、を知る。
			8 授業を設計する。
			9 言語と非言語の機能の相違を理解する。
			10 評価・測定の意味を知る。
			11 学習における報酬、集団について考える。
			12 各自の教育方法のイメージを描く。
評価方法	レポート、定期試験、出席回数など		
テキスト参考文献	『視聴覚メディアと教育』樹村房 参考文献はその都度指示する。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	教育方法学	担当者	安井 一郎
新カリ科目名	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的および講義概要	<p>本講は、今日の学校教育、とりわけ授業をめぐる問題状況をふまえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>毎日の授業をどのように工夫したらよいか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本稿では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>	授業計画	1 自分の授業体験を振り返る
			2 授業とは何か
			3 教材研究とは何か
			4 教材研究の事例の検討(1)
			5 教材研究の事例の検討(2)
			6 授業を構成する要素
			7 授業を創る技術(1)
			8 授業を創る技術(2)
			9 授業における教師－生徒関係
			10 特徴ある授業実践例の検討(1)
			11 特徴ある授業実践例の検討(2)
			12 授業研究の今日的課題
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		
テキスト参考文献	講義の中で紹介する		

旧カリ科目名	教育方法学	担当者	安井 一郎
新カリ科目名	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的および講義概要	<p>(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	生徒指導法	担当者	小川 一郎
新カリ科目名	生徒指導法	担当者	小川 一郎

講義目的および講義概要	<p>1. 講義目的</p> <p>生徒指導は、生徒のそれぞれの人格のより良き発達を目指すとともに、学校生活が生徒にとって充実したものになるようにすることを目的とする。そのためには、それぞれのもつ個性を伸ばし、自己実現を図り、進路を主体的に選択決定できる資質能力を育成するために 教師は生徒一人一人を理解し、指導・支援する必要がある。そのような教師の生徒指導の役割を理解することを目的とする。</p> <p>2. 講義概要</p> <p>生徒指導、進路指導の意義と課題 人間の成長、発達についての理解 問題行動の理解と指導法 ガイダンスの意味と役割 生徒指導、進路指導の組織と運営</p>	授 業 計 画	<p>1. 生徒指導、進路指導の意義と性格</p> <p>2. 生徒指導、進路指導の学校における位置付け</p> <p>3. 生徒指導の課題 人間関係の改善と望ましい人間関係の促進 基本的な生活習慣の改善など</p> <p>4. 進路指導の当面する課題 偏差値、進路適性と進路</p> <p>5. 人間としての在り方生き方と生徒指導、進路指導</p> <p>6. 生徒指導と生徒理解の方法と技術</p> <p>7. 進路指導と自己理解、個性の発見</p> <p>8. 問題行動の理解と指導Ⅰ いじめ</p> <p>9. 問題行動の理解と指導Ⅱ 不登校、中途進学、その他</p> <p>10. 教育相談、進路相談、ガイダンス</p> <p>11. 進路指導の実践的展開</p> <p>12. 生徒指導、進路指導の組織と運営</p>
	評価方法		出席状況 レポート提出
	テキスト参考文献		小川 一郎 中野目直明 編著「現代の生徒指導」文教書院

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要	授 業 計 画	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	生徒指導法	担当者	小川 輝之
新カリ科目名	生徒指導法	担当者	小川 輝之

講義目的および講義概要	<p>生徒指導、教育相談などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導上の今日的課題を取り上げ、課題解決に向けての具体的方策について考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方などについて検討する。</p> <p>関係図書、諸資料、各種答申等を用いて講義中心の授業を行うが、授業内容によってはディベートや討論・発表会等の学習形態で、諸課題を検討する。</p>	授業計画	<p>1 児童生徒の実態と生徒理解（1～2週）</p> <p>①児童生徒の生活と学校</p> <p>②生徒理解と青年期の特色</p> <p>2 生徒指導の意義と原理（3～5週）</p> <p>①生徒指導の機能と課題</p> <p>②生徒指導の方法</p> <p>③生徒指導計画と組織・役割</p> <p>④児童生徒に対する懲戒と体罰の禁止</p> <p>⑤生徒指導と教育課程</p> <p>3 教育相談の意義と原理（6～8週）</p> <p>①学校における教育相談の歴史</p> <p>②学校における教育相談の意義と役割</p> <p>③学校における教育相談の推進</p> <p>4 生徒指導上の諸課題（9～12週）</p> <p>①校則問題</p> <p>②いじめ</p> <p>③不登校</p> <p>④中途退学</p>
	評価方法		試験、発表、レポート、出席状況等により総合的に評価する。
	テキスト参考文献		参考文献 「生徒指導の実践上の諸問題とその解明」(文科省)

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12



旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的および講義概要	<p>まず初めにカウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>次に学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。</p> <p>さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>学校カウンセリングの問題を考察する前に、まずカウンセリングとは何かということについて全体的な知識を深める。次に、それをもとに、学校でカウンセリングをどのように利用し、それによって生徒にどのような意味や効果があるかについて他方面から検討していく。それらをふまえて、現在学校で問題となっている事柄、あるいは生徒自身の悩みを具体的にどのように解決していくかを考察する。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングの目的とその意義について考察する。</li> <li>2 カウンセリングの理論について比較検討する。</li> <li>3 カウンセリングの技法について具体的な例をもとに講義する。</li> <li>4 学校カウンセリングの目的と特色について考察する。</li> <li>5 学校場面におけるカウンセリングの基本的実習を行う。</li> <li>6 学校カウンセリングの現状と学校カウンセラーの役割について考察する。</li> <li>7 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題となっている行動について講義する。</li> <li>8 生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺などについて考察する。</li> <li>9 現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。</li> <li>10 青年期の友人関係、親子関係、恋愛、性の諸問題について検討する。</li> <li>11 知能テスト、性格テストの理論と種類について講義する</li> <li>12 心理テストの実施 性格テストを実施し自己理解を深める。</li> </ol>
評価方法	評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。		
テキスト参考文献	『新版カウンセリングと心理テスト』林潔他 ブレーン出版		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1</li> <li>2</li> <li>3</li> <li>4</li> <li>5</li> <li>6</li> <li>7</li> <li>8</li> <li>9</li> <li>10</li> <li>11</li> <li>12</li> </ol>
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	学校カウンセリング	担当者	林 潔

講義目的および講義概要	<p>カウンセリングは、基本的には話し合い療法です。話をすることの意味は何でしょう。この場合、聴く側がどのような姿勢なのかが大まかな条件にあります。そのためカウンセリングを学ぶ場合、傾聴訓練が最初のステップにあります。</p> <p>傾聴訓練の基本として、ロジャースのカウンセリング論を取り上げます。そのあと教育の場面にも適用しやすいという理由で、認知行動療法の中核を紹介します。</p> <p>何かをやるべきことがあったら、自分の気持ちを見つめよう。どうしてそう思うのか、どこまでやる必要があるのかどうか。現実とあわせて問題をみつめ、自分を追い込みたいようにしようという試みです。</p> <p>質問や小レポートの提出には、以下のメールも利用して下さい。</p> <p>hayashi@shiraume.ac.jp</p>	授業計画	1 人はなぜ悩むのか。いつかの考の方。中高生の問題とカウンセリング。
	2 気持ちのやり取り、問題へのやり取り。		
	3 カウンセリングのすすめ方、アウトライン。		
評価方法	平常点、中間の小レポートおよび期末試験で評価します。		4 問題はどう理解するか。 (受理面接)
テキスト参考文献	テキストは使用しません。参考書は随時提示します。		5 人は自分をどうとらえる。しかし、それが至る。 (こころの防衛)
			6 相談に来た人が主役だ。 (東洋中心カウンセリング)
			7 東洋中心カウンセリングの人間理解。
			8 東洋中心カウンセリングの取り組み (聴くことで問題がわかる)
			9 大事なことに行動を促す。そして、 き。(認知行動療法の方法)
			10 自分をみつめる。 (セルフモニタリング)
			11 ものの考えが現実的ではなると、 とき (認知の歪みのチェック)
			12 認知行動療法の方法。

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	学校カウンセリング	担当者	林 潔

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	学校カウンセリング	担当者	森川 正大

講義目的および講義概要	<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教師としての資質向上を図ることを目標とする。授業回数が少ないので、カウンセリングの理論学習は時間外に委ね、授業では、カウンセリングの体験学習をできるだけ多くしたい。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>①カウンセリングと学校カウンセリング          ②生徒理解と援助のポイント          ③カウンセリングの実際          ④カウンセリングの理論と技法          ⑤学校カウンセリングと心理テスト          ⑥保護者、校内組織その他の活用と連携</p>	授業計画	1	カウンセリングと学校カウンセリング
			2	カウンセラーの役割、教師の役割
			3	生徒理解と援助のポイント(1)／紙上応答実習
			4	生徒理解と援助のポイント(2)／応答の点検
			5	カウンセリングの実際—テープを聞く—
			6	カウンセリングの実際—問題の焦点は?—
			7	カウンセリングの理論と技法(1)
			8	カウンセリングの理論と技法(2)
			9	カウンセリングの理論と技法(3)
			10	学校カウンセリングと心理テスト
			11	保護者への援助：コンサルテーション
			12	校内組織その他の活用と連携／まとめ
評価方法	出席状況、授業中に課す提出物、および期末レポートを総合して評価する。			
テキスト参考文献	テキストは用いない。プリントによる。参考文献は、必要に応じて指示する。			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>小、中、高等学校の教育課程に導入された総合的な学習の時間についての目的、内容、方法等についての理解を深め、個別教科の枠を超えて指導することができるための経験カリキュラムや問題解決学習法を実践的に学習することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の目的、内容、方法についての基本的な理解</li> <li>・現代社会の抱える課題について具体的な事例を通して考察する</li> <li>・問題解決法について実践的に学習する</li> </ul>	授業計画	1 総合的な学習の時間の趣旨と今日の学校教育における意義
			2 総合的な学習の時間の内容と方法について
			3 グループ編成と研究テーマの設定に関わる考察
			4 研究テーマの決定と発表
			5 グループワーク
			6 グループワーク
			7 グループワーク
			8 グループワーク
			9 グループワーク、グループ討議
			10 研究成果の発表
評価方法	出席、発表、レポート提出等によって総合的に判断する。		11 研究成果の発表
テキスト参考文献	テキスト 特になし		12 発表をもとにしたグループ討議と全体討議
			* 春か秋の野外体験学習に参加すること

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、 講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	安井一郎
講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講は、小・中・高の教育課程に新たに設けられた総合的な学習の時間において行われる教育活動の内容、方法及びその今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、国際理解を主たるテーマとする総合的な学習の研究及び実践を行う。まず、総合的な学習の時間の趣旨、ねらい、教育的意義、学習方法、他の教科・領域との関係等についての基本的理解を深める。続いて、国際理解を深めるということはどういうことなのか、そのためのアプローチの仕方にはどのようなものがあるかについて話し合う。次に、具体的な研究テーマの決定、グループ編成を行い、総合的な学習の時間の学習方法に基づいて、実際に総合的な学習の実践を行う。最後に、グループごとに学習の成果をまとめ、発表する。本講は、学習の性格上、授業時以外の調査、見学、討論などの体験的な学習が不可欠である。</p>	授業計画	1 総合的な学習の時間の意義とねらい
			2 総合的な学習の時間の学習内容と学習方法
			3 国際理解とは何か
			4 研究テーマの決定とグループ編成
			5 グループ研究(1)
			6 グループ研究(2)
			7 グループ研究(3)
			8 グループ研究(4)
			9 グループ研究(5)
			10 グループ研究(6)
			11 研究成果の発表(1)
			12 研究成果の発表(2)
評価方法	出席、課題、レポートによる総合評価		
テキスト参考文献	『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する		* 春か秋の野外体験学習に参加すること

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。</p> <p>本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式で進める。</p>	授業計画	1 学校教育における総合的学習の意義
			2 獨協大学から世界の課題を考える（環境）
			3 グループワーク（フィールドワーク）
			4 グループワーク
			5 グループワーク
			6 発表
			7 獨協大学から世界の課題を考える（福祉）
			8 グループワーク（体験学習）
			9 グループワーク
			10 グループワーク
			11 発表
			12 まとめ
評価方法	出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。		
テキスト参考文献	授業中に個別に示される。		
			*春か秋の野外体験学習に参加すること

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的および講義概要	<p>講義目的 現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。</p> <p>講義概要 ①「国際理解」の基本的課題について提示する。②「世界の子どもたちと日本の子どもたちの比較」を課題とし、学生各自が興味関心に応じてひとつのトピックを選び、トピックごとにグループを編成する。③グループごとに、まず日本の子どもたちの現状について情報収集、討議を行う。④つぎに外国の子どもたちについて情報収集、討議を行う。⑤両者の比較検討を行いグループごとに検討の成果を発表する。⑤全体討議を行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 個人発表とグループ編成
			3 グループによる研究計画の作成
			4 研究計画発表
			5 グループ・ワーク
			6 中間発表
			7 グループ・ワーク
			8 グループ・ワーク
			9 グループ・ディスカッション
			10 最終発表
			11 最終発表
			12 全体討議
評価方法	成果発表（グループ）と自己評価等のレポート（個別に提出）、出席によって評価する。		
テキスト参考文献	特になし		
			* 春か秋の野外体験学習に参加すること

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	教育実習論（事前・事後指導）	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b> 教育実習の意義や目標、内容及び方法について理解を深め、効果的で充実した教育実習が体験できるための事前指導としての予備的で実際の学習を目標とする。</p> <p><b>講義概要</b> 次の事項について取り扱う。 ・教育実習の意義、目的 ・教育実習の内容及び方法 ・学校の組織と運営 ・実習生としての心得とサービスの在り方 ・授業への取り組みの方法と指導案作成</p> <p>教育実習の事前指導であるから原則的に欠席は認められない。止むを得ない事情によって欠席せざるを得ない場合は欠席届とレポート提出を求める。</p>	授 業 計 画	1 教育実習の意義・目的について
			2 教育実習の形態（観察・参加・実習）について
			3 学校の組織と運営について
			4 教育実習生としての心得とサービスの在り方
			5 教育実習の内容及び方法（各教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等）
			6 授業への取り組み（教材研究の方法）
			7 授業への取り組み（指導案の構想、発問や板書、教具の工夫、授業形態の工夫）
			8 指導案作成作業①
			9 指導案作成作業②
			10 指導案作成作業③
			11 指導案作成作業④と模擬授業①
			12 指導案作成作業⑤と模擬授業②
評価方法	出席とレポート（指導案等）の提出を求め総合的に評価する。		
テキスト参考文献	テキスト 教育実習の指針（獨協大学） 参考文献 必要に応じて指示する。		



旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	担当者	安井一郎
新カリ科目名	教育実習論 (事前・事後指導)	担当者	安井一郎
講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についても触れ、教育実習に関する理解を深めていく。</p>	授業計画	1 教育実習とは何か
			2 教育実習の概要
			3 学校の組織と教師の職務
			4 教材の研究
			5 学習指導案の作成(1)
			6 学習指導案の作成(2)
			7 発問
			8 板書
			9 生徒とのコミュニケーション
			10 模擬授業(1)
			11 模擬授業(2)
			12 教育実習期間中の諸注意
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		
テキスト参考文献	『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	小川 一郎
新カリ科目名	教育実習論（事前・事後指導）	担当者	小川 一郎

講義目的および講義概要	<p>1. 講義目的</p> <p>教育実習について、その概要を理解し、目的意識をもつてのぞめるようにする。そのため教育実習の意義や目的について、十分に理解させる。</p> <p>実習校に新風を吹き込み生徒に刺激を与えるために、実習にのぞむ心構え、生徒とのコミュニケーションのとり方などを重視し、授業を進める。さらに実習期間における仕事の内容を理解させ、十分に事前の準備ができるようにする。</p> <p>2. 講義概要</p> <p>教育実習の意義・目的について          教師の仕事の性質について（教師と生徒の関係など）          教師の資質とその形成について          実習にのぞむための目的意識とその心構え          学校の仕事の内容について          学校の現代的課題について          実習生の立場について</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要説明。学校教育に関する関係法規の概略。都道府県・市町村教育委員会と公立学校。私立学校。教科書。</li> <li>2. 教育職員の専門性（教職観、教師像、研究修養、授業等）。先輩の教育実習後の感想と意見</li> <li>3. 学習指導要領のねらい。幼・小・中・高等学校の一貫性ある教育。教育課程編成。目的と目標。</li> <li>4. 年間授業計画と学習指導案。指導案のいろいろ（様式、内容）。</li> <li>5. よい授業をするための教材研究と指導案のたてかた。</li> <li>6. 指導方法、達成感・成就感等を味わわせる指導。学習形態。発問、板書事項、チョークの使い方、机間指導等。評価とその活用。</li> <li>7. 生徒指導（特に心の教育等）。生徒理解、教育相談、進路指導、</li> <li>8. 道徳教育のねらい。資料準備及び指導案。</li> <li>9. 特別活動のねらい特に学級活動の指導の実際。短学活の活動の指導。</li> <li>10. 教師の一日 模擬授業（学級活動）</li> <li>11. 職員会、学年会、教科会、朝の打合せ等への参加の心構え。校務分掌</li> <li>12. 教育実習へ臨むことのまとめ。学校教育の今日的課題の討議と展望</li> </ol>	
	評価方法		レポート、出席状況などによる	
	テキスト参考文献		<p>参考文献</p> <p>「教育実習の指針」獨協大学          小川一郎編著 昭和41-42年          文芸春秋</p>	

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	教育実習Ⅰ（教育実習の事前・事後指導）	担当者	小川 輝之
新カリ科目名	教育実習論（事前・事後指導）	担当者	小川 輝之

講義目的および講義概要	<p>教職教育の最大の関門である教育実習を充実させるための諸準備について検討する。また、教育実習を通して得られた体験を踏まえて、教育現場での諸課題について考えとともに、新任教師としての心構えについても検討する。</p> <p>学習指導案や評価問題、模擬授業の実施、教育課題についての検討会など、受講者中心の授業となるので主体的な授業参加を期待する。</p>	授業計画	<p>1 教育実習の意義と内容（1～2週）</p> <p>①教育実習の意義と目標</p> <p>②教育実習の内容と実際</p> <p>③教育実習の評価</p> <p>2 学習指導案・評価問題の作成と模擬授業（3～6週）</p> <p>①教育実習前のグループ</p> <p>②教育実習後のグループ</p> <p>3 学校現場での課題（7～10週）</p> <p>①学習指導上の課題</p> <p>②生徒指導上の課題</p> <p>③学校経営上の課題等</p> <p>4 新任教師としての課題（11～12週）</p> <p>①教職の専門性と研修</p> <p>②教育改革の動向と学校の組織・運営</p>
	評価方法		出席及び活動状況、レポートその他の提出物等により総合的に評価する。
	テキスト参考文献		授業時に適宜紹介する。

旧カリ通年科目名	日本史概説	担当者	駒田 和幸
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	日本史概説 (通年)	担当者	駒田 和幸
新カリ科目名	日本史概説 I (近世)	担当者	駒田 和幸

講義目的および講義概要	<p>近世において、夫婦と子や祖父母からなる家族—歴史学ではこれを小農民の家とよぶ—が広範に成立し、こうした小農民の家が集まって村という共同体が形成された。この家と村が互に近世民衆の生活の主要な舞台であった。</p> <p>この舞台でくりかえされた近世民衆の生誕から死までの人生の諸相をできるだけ具体的に追究してみたい。また、そこにおいて国家公権をこなっていた幕藩領主はどのように関与していたのかについても考えてみたい。</p> <p>なお、概説ではあるが、時間の順序に従って、大筋史学的講義の必要最小限にかこえるつもりである。要点で高校の「日本史B」程度の知識をあらかじめ持っていてもらえるとありがたい。</p>	授業計画	1	江戸時代のイメージと笑像
			2	「慶安触書」について
			3	近世の村と家 (1)
			4	近世の村と家 (2)
			5	近世における奇聞 (1)
			6	近世における奇聞 (2)
			7	村と家における教育 (1)
			8	村と家における教育 (2)
			9	村と家における教育 (3)
			10	老いと死 (1)
			11	老いと死 (2)
			12	老いと死 (3)

評価方法 出席数と試験の結果を統合して評価する。

テキスト参考文献 授業の進度紹介したい。

旧カリ科目名	日本史概説 (通年)	担当者	駒田 和幸
新カリ科目名	日本史概説 II (近現代)	担当者	駒田 和幸

講義目的および講義概要	<p>日本近代史を考える場合、戦争の問題を避けて通るわけにはいかない。そこで本科目では日本近代史のなかで軍隊はどのような意味を持ったのか、あるいは民衆にとって兵士になるとはどのような体験であったのかをさまざまな史料を通して考えてみたい。</p> <p>手ごりしるがらの講義とあると思うが、免許課程の科目として、いくつかの視点 あるいは考え材料といったものを提供できればと考えている。</p>	授業計画	1	徴兵令について
			2	兵士になるということ (1)
			3	兵士になるということ (2)
			4	兵士になるということ (3)
			5	日清戦争をめぐって (1)
			6	日清戦争をめぐって (2)
			7	日露戦争をめぐって (1)
			8	日露戦争をめぐって (2)
			9	十五年戦争 (1)
			10	十五年戦争 (2)
			11	十五年戦争 (3)
			12	十五年戦争 (4)

評価方法 出席数と試験の結果を統合して評価する。

テキスト参考文献 授業のなかで紹介したい。

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

旧カリ科目名	外国史概説Ⅰ	担当者	兼田 信一郎
新カリ科目名	外国史概説Ⅰ（東洋史）	担当者	兼田 信一郎
講義目的および講義概要	<p>現代中国社会の様子を紹介しながら、中国の歴史、特に新石器時代から唐帝国滅亡までの概説を行う。</p> <p>90年代以降の中国の驚異的経済発展は、いままでの中国社会への見方を根底から揺さぶり、新たな中国認識の確立を我々に強いているように思える。</p> <p>一体中国社会とはどのような社会なのか？中国古史の概説を通してこの問題の一端に触れられたらと思っている。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 中国の現状（地理的概況・社会・経済など）
			3 新石器時代から殷・周時代まで
			4 春秋戦国時代の社会
			5 秦漢帝国と周辺諸民族 1
			6 秦漢帝国と周辺諸民族 2
			7 後漢の衰亡から三国時代
			8 晋の盛衰と南北朝時代
			9 隋唐帝国 1
			10 隋唐帝国 2
			11 中国古代における女性
			12 中国古代史をどうみるか
評価方法	出席状況とペーパー試験で評価する。		
テキスト 参考 文献	『グローバルワイド世界史図表』（第一学習社）、堀敏一著『中国通史』（講談社学術文庫）		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****			
新カリ科目名	*****	担当者	*****			
講義目的および講義概要		授業計画	1			
			2			
			3			
			4			
			5			
			6			
			7			
			8			
			9			
			10			
			評価方法			11
			テキスト参考文献			12

旧カリ科目名	外国史概説Ⅱ	担当者	熊谷哲也			
新カリ科目名	*****	担当者	*****			
講義目的および講義概要	<p>(講義の目的)  イスラーム世界の歴史について学ぶ。ある意味では、イスラーム世界は我々の視野から最も遠い世界と言えるかも知れない。そこに生きる人々について、我々の今日的な問題関心と、彼らの社会や文化に対する興味を掘り下げてみたい。</p> <p>(講義概要)  歴史を学ぶ姿勢は、現代的な問題関心と表裏一体であるべきだ。ここではパレスチナ問題や旧ユーゴの問題、カスピ海周辺諸国の民族問題などを知ることによって、現代的な問題関心を掘り下げ、新聞やニュースなどを理解できるようにする。イスラームの教えにかんする基本的な知識もあわせて理解する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション。イスラームの基本事項について説明する。			
			2 ユダヤ教・キリスト教とイスラーム教との関係について理解する。			
			3 預言者によって建設された宗教共同体が、広大なイスラーム世界へと拡大する様相。			
			4 イスラーム世界における近代化の問題を、西洋とのさまざまな関係から考える。			
			5 パレスチナ問題① 第2次中東戦争まで。			
			6 パレスチナ問題② 第4次中東戦争とその後について。			
			7 旧ユーゴスラビアの民族問題① ボスニア紛争までの歴史を中心に。			
			8 旧ユーゴスラビアの民族問題② コソボ紛争とNATOの問題。			
			9 旧ソ連のカスピ海沿岸、中央アジア諸国の問題① 旧ソ連の崩壊まで。			
			10 旧ソ連のカスピ海沿岸、中央アジア諸国の問題② 現在の諸問題を中心に。			
			評価方法	毎回出席をとる。期末に試験。		11 ポスト冷戦時代と、イスラーム諸国をめぐる様々な問題について。
			テキスト参考文献	とくにさだめない。		12 まとめ オリエンタリズム論、文明の衝突論などの検討。

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	外国史概説Ⅲ	担当者	古川 堅治
新カリ科目名	外国史概説Ⅱ（西洋史）	担当者	古川 堅治

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義目標&gt;歴史学と歴史教育の接点、そして両者の関係の仕方を、最新の研究成果を念頭に置きながら概説的に把握しつつ、歴史の教え方についてどのように考えるべきかを、外国史——本年度はヨーロッパ古代史——を中心に理解することを目標とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt;講義ではプリントを配布しながらビデオやLDなど映像資料を使って概説的に説明していく。授業はア・ホームな雰囲気で行なうことに心がけ、何よりも歴史の面白さと厳しさを伝えたいと考えているので、受講生も積極的に発言等に努め、授業へ主体的に参加していただきたい。</p>	授 業 計 画	1 「はじめに：なぜ歴史を学ぶのか？」 歴史学の課題と考察対象の時空的限定
			2 「クレタ、ミケーネ文明と英雄の時代」 東地中海世界とトロイ戦争の歴史性
			3 「《暗黒時代》からポリス世界へ」 ポリスの形成、植民活動、アテナイの興隆
			4 「ペルシア戦争の世界史的意味」 ペルシアとギリシア、ギリシア古典文明の隆盛
			5 「ポリス社会の衰退」 ペロポネソス戦争と前四世紀のギリシア世界
			6 「アレクサンドロスとヘレニズム時代」 アレクサンドロスの東征とヘレニズム諸王国
			7 「ローマの発展」 ローマの起源とその地中海制覇
			8 「ローマの市民社会Ⅰ」 市民と政治、公職者と元老院
			9 「ローマの市民社会Ⅱ」 家父長権と家、奴隷
			10 「ローマ帝国の支配」 プリンキパトス制からドミナトス制へ、属州支配
			11 「古代社会の終焉と新しい時代の胎動」 ローマ帝国の滅亡、キリスト教化されたヨーロッパ
			12 「まとめ」
評価方法	基本的にはポートにより評価するが、出席点も加味する。		
テキスト参考文献	テキストは使用することはない。参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	外国史概説Ⅳ	担当者	久慈 栄志
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要	<p>「和魂洋裁」という言葉が示す通り、明治・大正期はもちろん、今日においても依然として日本社会の底流にはこの考え方が生き続けている。明治維新によって近代化を成し遂げた日本だが、それは単にヨーロッパ文化・諸制度の模倣であったのか否か。日本人が受容し「血や肉」としたヨーロッパの「伝統」とは何だったのかを考えたい。</p> <p>講義では、ヨーロッパの「近代化の過程」を多角的に考察し、その功罪を論ずる。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下記の参考文献中1～2冊は目を通してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーラステイン著 新版『史的システムとしての資本主義』（岩波書店）</li> <li>・エリック・ホブズボーム著 『ホブズボーム歴史論』（ミネルヴァ書房）</li> <li>・歴史学研究会編 『歴史学における方法的転回』（青木書店）</li> <li>・堺 憲一 『あなたが歴史と出会うとき』（名古屋大学出版会）</li> </ul>	授業計画	1 オリエンテーション 本講義の目的。歴史学の役割と学ぶ姿勢。
			2 歴史学へのアプローチ 文献の検索、史料収集、論文作成等について。
			3 歴史叙述・歴史理論の変遷（1） 古代から中世までについて解説する。
			4 歴史叙述・歴史理論の変遷（2） 近代以降について解説する。
			5 「近代」の概念について ヨーロッパ中心史観に起因する「近代」の概念について。
			6 宗教改革 宗教改革にみる近代性と、インパクトについて。
			7 同上
			8 ルネサンス・大航海時代 価値観の転換と資本主義の胎動、ヨーロッパ優位の一体化。
			9 産業革命 拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義運動の必然性について。
			10 同上
			11 「近代」総括 ヨーロッパにおける近代化過程を概観し、功罪を論ずる。
			12 予備
評価方法	最終回の授業時に試験を実施。（論述形式、ノート等持ち込み不可）		
テキスト参考文献	上記の参考文献を参照。		



旧カリ通称科目名	地理学概説	担当者	秋本 弘章
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	地理学概説（通年）	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	地理学概説Ⅰ（自然）	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>なお、講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。</p>	授業計画	1.オリエンテーション（講義の概要）
			2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識
			3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形
			4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む
			5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町
			6.東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地
			7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地
			8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾
			9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地
			10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール
			11.東京・関東の気候的特色(2)観測データと景観から気候を読む
			12.東京・関東の気候的特色(3)都市気候
評価方法	試験とレポート（小課題）、出席状況		
テキスト参考文献	テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		

旧カリ科目名	地理学概説（通年）	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	地理学概説Ⅱ（人文）	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「立地」「伝播」「景観」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p>	授業計画	1.地理学の歴史（1）
			2.地理学の歴史（2）
			3.地理学の歴史（3）
			4.地理学の主要概念（1）環境
			5.地理学の主要概念（2）立地
			6.地理学の主要概念（3）景観
			7.地理学の主要概念（4）伝播
			8.地理学のトピックス（1）現代の地図
			9.地理学のトピックス（2）メンタルマップ
			10.地理学のトピックス（3）時間地理学
			11.地理学のトピックス（4）教育と地理学
			12.まとめ
評価方法	試験とレポート（小課題）、出席状況		
テキスト参考文献	テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	地誌学概説Ⅰ (日本)	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、ならびに「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本を事例として、自然環境、歴史的背景、地域文化、産業構造等を考察する。</p> <p>なお、受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p>	授業計画	1. オリエンテーション—系統地理学と地誌学
			2. 「地域」の概念
			3. 地域分析の基礎 (1) 文献・資料・統計の所在と検索
			4. 地域分析の基礎 (2) 統計の利用
			5. 地域分析の基礎 (3) 統計の地図表現
			6. 地域分析の基礎 (4) 空間分析法
			7. 地域分析の基礎 (5) 地域構造図
			8. 日本地誌 (1) 自然環境
			9. 日本地誌 (2) 風土と地域文化
			10. 日本地誌 (3) 人口分布と人口構造
			11. 日本地誌 (4) 産業と地域変容(1)
			12. 日本地誌 (5) 産業と地域変容 (2)
評価方法	試験とレポート (小課題)、出席状況		
テキスト参考文献	テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		

旧カリ科目名	地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
新カリ科目名	地誌学概説Ⅱ (世界)	担当者	秋本 弘章
講義目的および講義概要	<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、ヨーロッパを事例地域としてとりあげ、地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>なお、受講者は地図帳を持参すること。</p>	授業計画	1. 地域の見方
			2. 世界の地域構造とその変容
			3. ヨーロッパ地誌 (1) 範囲と自然環境
			4. ヨーロッパ地誌 (2) 人種、人口問題
			5. ヨーロッパ地誌 (3) 文化—宗教
			6. ヨーロッパ地誌 (4) 文化—言語
			7. ヨーロッパ地誌 (5) 民族と国家
			8. ヨーロッパ地誌 (6) EU の成立と発展
			9. ヨーロッパ地誌 (7) 農業地域と共通農業政策
			10. ヨーロッパ地誌 (8) 鉱工業とその変容
			11. ヨーロッパ地誌 (9) 都市の特質
			12. ヨーロッパ地誌 (10) 地域構造
評価方法	試験とレポート (小課題)、出席状況		
テキスト参考文献	テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	地理学調査法	担当者	松本 栄次
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要	<p>講義の目的：調査地域に赴いて資料を収集するフィールドワークが地理学の調査研究のもっとも基本的な作業であり、地理教育においても地域の調査は重要視されている。この講義では、とくに地域の理解に欠かせない自然環境と土地利用に関するフィールドワークについて、その準備・実行・資料整理の方法などを解説する。</p> <p>講義概要：具体的地域（とくに大学周辺地域）を題材にして、自然環境と土地利用の調査に必要な基礎的テクニックについて講義および実習を行う。また、自然環境と人間に関する具体的な地理学調査研究の例を紹介する。</p>	授業計画	1 序説：地理学および地理学研究の方法
			2 地図の利用1：地図の種類と特徴、地図の用途・入手法
			3 地図の利用2：位置・距離・面積など基本情報の獲得
			4 地図の利用3：地形判読の実習
			5 地図の利用4：土地利用判読の実習
			6 空中写真の利用1：空中写真から得られる基本情報
			7 空中写真の利用2：空中写真判読の実習
			8 測量の原理と簡易測量法
			9 平野地域における土地条件と土地利用の野外調査（1）
			10 平野地域における土地条件と土地利用の野外調査（2）
			11 平野地域における土地条件と土地利用の野外調査（3）
			12 調査結果のまとめ方
評価方法	学期末のレポートと出席状況を総合して判断する。		
テキスト参考文献	授業中に適宜紹介する。		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	法律学概説（通年）	担当者	野村 武司
講義目的および講義概要	<p>&lt;講義目的および講義概要&gt;</p> <p>現代社会において法は重要な機能を果たしてそれが社会でしばしば起る紛争の解決に有意な手段を提供していることはいままでのない。また、そうした法があるから、違法な行為を差し控えるということがあるかもしれない。一方、日常生活レベルではあまり法は関係がないような気もするが、法に根拠づけられた許認可等の規制がなされていることで滞りなく生活ができるという側面も見のがすことはできない。そして、政策を遂行するための法もある。こうした法の機能を念頭に置きながら法の仕組みを素描できればと考えている。</p> <p>講義では、法および法学についてのイントロダクションを経た後、具体的な問題も取り入れながら、憲法と人権、行政と法、市民生活と法、企業および経済生活と法、犯罪と法、国際社会と法それぞれの分野、さらに裁判・裁判制度及び紛争解決の法について概観する。講義形式を基本とし、ときに指名をし質問をすることがあるが、答えることに遠慮をする必要はない。</p>	授 業 計 画	1 イントロダクション 法とは何か（1）
			2 法とは何か（2）
			3 法の歴史と法構造
			4 日本法の特質
			5 法の諸分野 憲法と人権（1）
			6 憲法と人権（2）
			7 人権保障と統治機構（1）
			8 人権保障と統治機構（2）
			9 行政と法（1）
			10 行政と法（2）
			11 市民生活と民法（1）
			12 市民生活と民法（2）
評価方法	原則として定期試験による。		
対外参考文献	開講時および随時指示する。		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	法律学概説（通年）	担当者	野村 武司
講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 市民生活と民法（3）
			2 企業と法（1）
			3 企業と法（2）
			4 経済生活と法（1）
			5 労働者と法
			6 犯罪と法（1）
			7 犯罪と法（2）
			8 国際社会と法
			9 法と救済 裁判および裁判所の仕組み
			10 裁判手続の法（1）
			11 裁判手続の法（2）
			12 まとめ
評価方法			
対外参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	政治学概説（通年）	担当者	杉田 孝夫
講義目的および講義概要	<p>現代社会の政治構造と政治を理解する上で必要な基本概念といくつかの観点を学び、現代の政治的諸問題を批判的に理解する教養を養うことを年間の目標とする。</p> <p>講義は下記のテキストに即しておこなう。</p>	授業計画	1 政治社会のなりたち（1）迷える小羊たち
			2 政治社会のなりたち（2）幸福な群れをなて
			3 政治社会のなりたち（3）番犬になった狼
			4 政治社会のなりたち（4）番犬のいない羊群
			5 政治社会のなりたち（5）番犬は狼だった
			6 政治社会の制度化（1）伝統と自然
			7 政治社会の制度化（2）実定法と自然法
			8 政治社会の制度化（3）自然権と社会契約
			9 政治社会の制度化（4）国民主権と議会主義
			10 政治社会の制度化（5）主権国家と国民主権
			11 近代の政治社会と議会制（1）議会制
			12 近代の政治社会と議会制（2）多数決原理
評価方法	出席・レポート・前後期それぞれの学期末試験の結果に基づき評価をおこなう。		
テキスト参考文献	テキスト 有賀・阿部・齋藤『政治—個人と統合—』東京大学出版会、1800円		

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	政治学概説（通年）	担当者	杉田 孝夫
講義目的および講義概要	<p>現代社会の政治構造と政治を理解する上で必要な基本概念といくつかの観点を学び、現代の政治的諸問題を批判的に理解する教養を養うことを年間の目標とする</p>	授業計画	1 近代の政治社会と議会制（3）代表制
			2 近代の政治社会と議会制（4）政治指導
			3 近代の政治社会と議会制（5）権力分立
			4 近代の政治社会と議会制（6）政治責任
			5 変容する政治社会（1）利害の多元化と統合
			6 変容する政治社会（2）選挙による統合
			7 変容する政治社会（3）利害の対立と政党
			8 変容する政治社会（4）行政権の拡大
			9 変容する政治社会（5）国家機能の転換
			10 現代政治の課題（1）現代社会と個人
			11 現代政治の課題（2）組織化と政治
			12 現代政治の課題（3）現代の国際政治社会
評価方法	出席・レポート・前後期それぞれの学期末試験の結果に基づき評価をおこなう。		
テキスト参考文献	テキスト 有賀・阿部・齋藤『政治—個人と統合—』東京大学出版会、1800円		

旧カリ通年科目名	社会学概論	担当者	有吉 広介
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	社会学概論（通年）	担当者	有吉 広介
新カリ科目名	社会学概説（通年）	担当者	有吉 広介

講義目的および講義概要	講義目標 中学・高校の社会科学教育のなかで取り上げられている社会学的知識・説明・解釈を中心として、現代の社会生活を理解するために必要な考え方を講義する。	授 業 計 画	1 社会行動の構造
	講義概要 まず、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な概念を取り上げ、そのなかで、人間、社会、および文化の相互関係を考察する。ついで、社会生活の基本単位といわれる家族集団が、近代化のさまざまな過程のなかでどのように変化してきたかを問題にする。引き続き、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化、大衆化、官僚制化、学歴社会化、情報化、人口の高齢化と少子化、そしてグローバル化の諸現象について逐次ふれながら、現代の社会問題の基礎を明らかにする。		2 人間、社会、文化の相互関係
			3 社会集団の構造と機能
評価方法 前期末および後期末に提出を求めるレポートを総合評価する	テキスト参考文献 講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。		4 家族の構造と機能（1）
			5 家族の構造と機能（2）
評価方法 前期末および後期末に提出を求めるレポートを総合評価する	テキスト参考文献 講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。		6 家族制度と核家族化
			7 社会の産業化
評価方法 前期末および後期末に提出を求めるレポートを総合評価する	テキスト参考文献 講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。		8 官僚制化
			9 大衆社会
評価方法 前期末および後期末に提出を求めるレポートを総合評価する	テキスト参考文献 講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。		10 社会の階層化
			11 日本人の階層意識
評価方法 前期末および後期末に提出を求めるレポートを総合評価する	テキスト参考文献 講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。		12 前期講義の補足

旧カリ科目名	社会学概論（通年）	担当者	有吉 広介
新カリ科目名	社会学概説（通年）	担当者	有吉 広介

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 都市化と都市問題
			2 新しいコミュニティ
			3 学歴社会
			4 日本の近代化と学歴尊重
			5 社会の情報化
			6 日本人の生活時間の使い方
			7 高齢化・少子化社会の出現
			8 高齢社会の諸問題
			9 少子化社会の諸問題
			10 生活の質の問題
			11 グローバル社会の出現
			12 後期講義の補足

旧カリ通年科目名	哲学概説	担当者	河口 伸
----------	------	-----	------

旧カリ科目名	哲学概説（通年）	担当者	河口 伸
新カリ科目名	哲学概説（通年）	担当者	河口 伸

講義目的および講義概要	<p>昨今、哲学の復権が唱えられ、自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。西欧思想を歴史的に辿ることと、本講義の概要であるが、そこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学を、ギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らとその思想を形成した動機や課題、歴史的な位置付けなどを重視して論じる。</p>	授 業 計 画	1 哲学とは何か（1）
			2 ソクラテス以前
			3 ソクラテス
評価方法	夏冬各1回のレポート、出席点を前後期の試験の点に加算（出席は2/3以上必要）		4 プラトン
			5 アリストテレス
テキスト参考文献	『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		6 スコラ哲学
			7 科学革命
			8 ルネサンスと宗教改革
			9 合理論と経験論（1）
			10 合理論と経験論（2）
			11 社会契約説
			12 啓蒙主義

旧カリ科目名	哲学概説（通年）	担当者	河口 伸
新カリ科目名	哲学概説（通年）	担当者	河口 伸

講義目的および講義概要	前期と同じ	授 業 計 画	1 カント
			2 ドイツ観念論
			3 キルケゴール
評価方法	夏冬各1回のレポート、出席点を前後期の試験の点に加算（出席は2/3以上必要）		4 ニーチェ
			5 マルクス
テキスト参考文献	『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		6 フッサール・ハイデッガー・
			7 ヤスパーズ（1）（2）
			8 歴史主義・解釈学
			9 ウィトゲンシュタイン
			10 構造主義
			11 言語哲学
			12 哲学とは何か（2）

旧カリ通年科目名	倫理学概論	担当者	鳥谷部 志乃恵
----------	-------	-----	---------

旧カリ科目名	倫理学概論 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	倫理学概説 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>高等学校で「倫理」を教えるためには、先ず自らが倫理について考える姿勢を身につけ、かつ円満な人格を実現していることが望ましい。これは、中学校において「道徳教育」を実践するための精神的基盤としても不可欠である。併せて、そのために必要な基礎的教養を身につけさせることを意図する。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>1. 倫理学とはどういう学問であるか。学問の全体系の中でどういう位置を占めるか。</p> <p>2. 主要概念——この中で、思想上重要な思想家の学説にも触れることになる。</p>	授 業 計 画	1 倫理学と道徳
			2 ヨーロッパ倫理学の歴史における二つの重心
			3 アリストテレス・カント
			4 ソクラテスの倫理 (1)
			5 " (2)
			6 プラトンの倫理学(1)
			7 " (2)
			8 アリストテレスの倫理学 (1)
			9 " (2)
			10 キリスト教倫理学の根源とその歴史の変遷
評価方法	二回の小レポートの提出 と定期試験によって総合的に判断する。		11 十戒(ユダヤ教)と隣人愛(キリスト教)
テキスト参考文献	テキスト 参考文献 使用しない。 必要に応じて指示する。		12 神と人間との関係をめぐる諸問題

旧カリ科目名	倫理学概論 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
新カリ科目名	倫理学概説 (通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 カントの道徳哲学		
			2 個別と普遍 徳と義務		
			3 カント倫理学の歴史的意義		
			4 行為 自由		
			5 カント倫理学に対する批判の検討		
			6 道徳意識		
			7 共同体		
			8 主体としての人格		
			9 功利主義的倫理学と実質的価値倫理学		
			10 人間存在の個別的原理と普遍的原理		
	評価方法				11 普遍的良心形成理論の根本的特徴
	テキスト参考文献				12 良心と規範



旧カリ通年科目名	宗教学概論	担当者	河口 伸
----------	-------	-----	------

旧カリ科目名	宗教学概論 (通年)	担当者	河口 伸
新カリ科目名	宗教学概説 (通年)	担当者	河口 伸

講義目的および講義概要	<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じて来ている。そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は、洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p>	授 業 計 画	1 宗教とは何か (1)
			2 神話と宗教
			3 ユダヤ教
			4 キリスト教 (1)
			5 キリスト教 (2)
			6 キリスト教 (3)
			7 イスラム教 (1)
			8 イスラム教 (2)
			9 仏教 (1)
			10 仏教 (2)
			11 ヒンドウ教
			12 儒教
評価方法	夏冬各1回のレポート、出席点を前後期の試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)		
テキスト参考文献	『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		

旧カリ科目名	宗教学概論 (通年)	担当者	河口 伸
新カリ科目名	宗教学概説 (通年)	担当者	河口 伸

講義目的および講義概要	<p>講義目的は前期に同じ。後期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進諸国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p>	授 業 計 画	1 道教
			2 日本の宗教の歴史と現在 (1)
			3 日本の宗教の歴史と現在 (2)
			4 日本の宗教の歴史と現在 (3)
			5 宗教上の諸概念 (儀礼、戒律、修行など) (1) (2)
			6 宗教集団の諸問題 (1)
			7 宗教集団の諸問題 (2)
			8 学校教育と宗教 (1)
			9 学校教育と宗教 (2)
			10 学校教育と宗教 (2)
			11 宗教とは何か (2)
			12 宗教学の課題
評価方法	夏冬各1回のレポート、出席点を前後期の試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)		
テキスト参考文献	『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎

講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する科目との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、教科の授業と学習、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。</p>	授業計画	1 中学校教育の目的・目標
			2 中学校の教育課程
			3 教科の成立と発展
			4 教科教育と教科外教育
			5 中学校教育における教科教育の意義
			6 教科の授業論 1 :教科の特質と教材研究の視点
			7 教科の授業論 2 :必修教科と選択教科
			8 教科の授業論 3 :教科と総合的な学習(1)
			9 教科の授業論 4 :教科と総合的な学習(2)
			10 学力と評価(1)
			11 学力と評価(2)
			12 教科教育の今日的課題
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		
テキスト参考文献	『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
参考 文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	教科教育法特論ⅠⅠ	担当者	浅岡 千利世
--------	-----------	-----	--------

講義目的および講義概要	このコースは外国語科目を将来教える学生が、担当教科に関わる学習指導要領と教科書の内容を十分理解し、それを児童・生徒に教授できるだけの知識を有することを目的とする。特に第二言語習得論をふまえた上でどのように授業を効果的に行うかを考える。  正確さと流暢さの均衡のとれた言語力の発達を個々の学習環境の中でいかに促進させることができるかを、音声指導、つづりと発音、語彙指導、定型表現の指導、言語の機能の指導、談話(会話文)、文章の指導、コミュニケーション方略の指導などの項目を通して考える。また言語習得観と学習者観を通して、学習者を生かしながら外国語を指導する方法を考える。	授 業 計 画	1 コースイントロダクション
			2 母語習得と第二言語習得
			3 言語活動を進めるための基本概念
			4 学習者の誤り
			5 音声指導
			6 語彙指導
			7 定型表現の指導
			8 言語の機能の指導
			9 談話・文章の指導
			10 コミュニケーション方略の指導
			11 文法の指導
			12 まとめ
評価方法	出席、授業への貢献、毎回の授業での発表、期末試験を総合して評価する。		
参考 文献	『新学習指導要領に基づく英語科教育法の構築と展開』編著青木昭六(現代教育社)		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	鳥谷部 志乃恵

講義目的および講義概要	<p>講義目標 教育実習の反省を通じて、教師に求められる実践的指導力とは何であるかについて自らの経験から考察し、学習指導と生徒指導の両面から、各自が教職に就くための学習課題を見出すことを目標として実践的指導をする。</p> <p>講義概要 学習指導と生徒指導の両面から学習課題を見つけることができるように基本的な事柄を解説し、個々の実態に応じて実践的な指導を徹底する。</p>	授業計画	1	教育実習の反省(1)
			2	教育実習の反省(2)
			3	教育実習の反省(3)
			4	グループ討議
			5	教育実践に不可欠な能力とは何か(1)
			6	〃 (2)
			7	自分に欠けていたと思われるものは何か(1)
			8	〃 (2)
			9	教材研究(1) 指導案作成(1)
			10	教材研究(2) 指導案作成(2)
			11	模擬授業(1)
			12	模擬授業(2) 全体討議
評価方法	教材研究、指導案作成、模擬授業等の成果を総合的に判断する。			
テキスト参考文献	テキストは使用しない。参考文献は適宜指示する。			

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
新カリ科目名	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井一郎
講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>	授業計画	1 教育実習の体験の発表
			2 教育実習レポートの作成
			3 発問
			4 板書
			5 各種資料及び機器の活用
			6 生徒とのコミュニケーション
			7 授業評価
			8 学習指導案の作成(1)
			9 学習指導案の作成(2)
			10 近年の教育改革の現状と課題
			11 模擬授業(1)
			12 模擬授業(2)
評価方法	出席、レポート、試験による総合評価		
テキスト参考文献	『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する		

旧カリ通年科目名	*****	担当者	*****
----------	-------	-----	-------

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	介護ボランティアの理論と実践	担当者	川野 祐二
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	本講義は、「教育職員免許法の特例に関する法律」によって定められた中学校教諭に係る普通免許状を取得しようとする者に義務付けられている「介護等体験」の事前指導の科目である。介護等体験は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、義務教育の充実と教員の資質向上の観点から、教員養成のカリキュラムに義務付けられたものである。障害者、高齢者に対する介護、介助、これらの人々との交流などの体験を行うためのものである。そのための事前指導として、福祉分野におけるボランティアの歴史をふまえつつ、ヒューマンサービスである介護ボランティアの心理・行動・組織管理を学ぶ。本講義の狙いは、ボランティアの心性を論じ、これを軸として、利潤を目的にしない人々の行動様式とそれに相応しい実践を支えるための経営管理を考えることにある。授業計画等については最初の授業で説明する。	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
対外参考文献			

旧カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

新カリ科目名	*****	担当者	*****
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
対外参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書館概論（前期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	図書館・情報センターとはどのような仕事をするところなのか、まず確認していく概論の科目である。地方公共団体が設置する公立図書館で働く専門職「司書」の業務内容とその使命、意義などを認識し、図書館が地域社会のなかで果たす役割を明確にしていく。さらに、IT革命といわれる情報社会のなかでの図書館の現在位置、将来展望を歴史的記憶をたどりながら、確認し、考えていく。	授業計画	1 現代社会と図書館(1) －“図書館”とはなにか。民主主義社会と図書館－
			2 図書館法規と行政 －憲法と図書館法、公立図書館と公共図書館－
			3 現代社会と図書館(2) －生涯学習社会・情報社会と図書館－
			4 図書館の歴史的展開 －図書館史。図書館にも歴史がある。－
			5 図書館の理念(1) －人々の知る自由と権利の保障機関としての図書館。図書館と知的自由、表現の自由－
			6 図書館の理念(2) －図書館員の専門性－
			7 図書館の実務 －貸本屋ではない図書館、図書館の4要素－
			8 地域社会と公共図書館 －地域資料・行政資料の提供－
			9 地域社会と学校図書館 －学校教育の変貌と学校図書館メディア・センターの役割－
			10 地域社会と大学図書館 －学術情報センターとしての大学図書館の役割－
			11 国立国会図書館、専門図書館など －多様な図書館の存在－
			12 図書館ネットワーク －図書館とはさみは使いよう……－
評価方法	・出席点 [12回 X 3%] 36% ・レポート 30% (15+15) ・テスト 30%		
テキスト参考文献	塩見昇編著『図書館概論 三訂版』日本図書館協会		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

通年科目名	図書館サービス経営論	担当者	井上靖代
-------	------------	-----	------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書館サービス経営論(通年科目)	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>目的 「図書館概論」での理解をふまえて、さらに具体的な図書館活動の内容について、より深く学習する科目である。 前期は「図書館サービス論」の内容を主として講義する。</p> <p>内容 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p>	授業計画	1 図書館サービスの意義
			2 来館者へのサービス -貸出、利用援助など-
評価方法	・出席 12 X 2 = 24% ・小レポート 20% ・テスト 56%		3 資料提供の基礎
			4 資料提供の展開 -著作権法と図書館-
テキスト参考文献	テキストは指定しませんが、参考資料を最初の授業時に示します。		5 情報提供 -レファレンス・サービス(参考調査業務)-
			6 集会・文化活動、行事など
			7 利用対象者別サービス
			8 多様な利用者サービス -図書館利用を阻害されている人々へのサービス-
			9 利用者の交流の場としての図書館
			10 図書館マーケティング活動
			11 図書館サービスと図書館員・司書
			12 まとめ(テスト)

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書館サービス経営論(通年科目)	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>目的 「図書館概論」での理解をふまえて、さらに具体的な図書館活動の内容について、より深く学習する科目である。 後期は「図書館経営論」の内容について主として、講義と演習方式で行う。</p> <p>公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館経営とは何か、図書館経営に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。</p>	授業計画	1 公共図書館の使命と任務 -図書館経営の在り方-
			2 自治体行政と図書館 -図書館の組織と管理・運営-
評価方法	・出席 12×2=24% ・レポート 15×2=30% ・試験 46%		3 資料管理と運営 -図書館と知的自由(1)-
			4 資料管理と運営 -図書館と知的自由(2)-
テキスト参考文献	テキストは指定しませんが、参考資料を配布します。		5 資料管理と運営 -図書館と知的自由(3)-
			6 図書館経営とシステム運営 -人事管理; 図書館長・館員の責務及び養成・研修、ボランティアの養成・活用・問題点など-
			7 施設管理 -施設・設備と図書館利用-
			8 図書館サービス計画の意義と方法
			9 図書館調査 -アンケート調査、統計分析・評価-(1)
			10 図書館調査 -アンケート調査、統計分析・評価(2)-
			11 情報ネットワーク形成の意義と方法
			12 まとめ(テスト)



通年科目名	情報サービス論	担当者	福田 求
-------	---------	-----	------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	情報サービス論 (通年)	担当者	福田 求
講義目的および講義概要	<p>【注意】事前に受講者の抽選を行う。詳細は時間割表を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【講義目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指し、情報サービスに関する解説と演習を行う。</p> <p>【講義概要】前期では、図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。また後期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p>	授業計画	1 受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等について説明。
			2 情報サービスの概要と実際(ビデオ鑑賞等)
			3 レファレンスサービス
評価方法	前期および後期の期末試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。		4 利用案内、レフェラルサービス
			5 カレントアウェアネスサービス、検索サービス
テキスト参考文献	適宜指示する。		6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 発展的情報サービス
			8 情報サービスで用いる情報源の類別
			9 レファレンスコレクションの構築・評価
			10 情報サービスにおけるコミュニケーション
			11 最新の情報サービス(1)
			12 前期授業全体のまとめ。試験。質問受付。

科目名	*****	担当者	*****
科目名	情報サービス論 (通年)	担当者	福田 求
講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 実習についての説明
			2 情報サービスで用いる情報源の類別
			3 辞書
評価方法	前期および後期の期末試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。		4 事典
			5 便覧/図鑑
テキスト参考文献	適宜指示する。		6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 歴史/地理・地名の情報源
			8 人物・団体の情報源
			9 統計の情報源
			10 文献検索の情報源
			11 最新の情報サービス(2)
			12 後期授業全体のまとめ。試験。質問受付。

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	情報検索演習	担当者	高柳 敏子
講義目的および講義概要	<p>はじめに、情報検索システムの一連の流れの蓄積段階と検索段階を概観する。蓄積段階では、一次資料から二次資料への情報の加工の課程で、情報の入手、主題分析、検索キーの作成、索引、データベースといった処理項目を、また検索段階では、情報要求、検索質問、検索式、ソースの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またソースについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムをできるだけ活用し、CD-ROMを使用したオンライン検索では練習用のJ-BISCによる実習を、また最近のマルチメディア辞典等も扱ってみる。</p>	授業計画	1 ガイダンス 情報、情報検索とは
			2 情報検索システム 情報検索システムの蓄積段階と検索段階
			3 検索演習(1) OPAC とインターネット
			4 蓄積段階の諸項目 一次資料と二次資料、主題分析、検索キー、索引
			5 情報検索とデータベース データベースとは
			6 検索演習(2) オンライン検索、CD-ROM の利用
			7 検索段階の諸項目(1) 情報要求、検索質問、検索式
			8 検索演習(3) J-BISC の実習
			9 検索段階の諸項目(2) 検索結果の評価、再現率、適合率
			10 検索演習(4) ソース等検索用辞書の利用、JOIS 体験
			11 オンライン検索とインターネット インターネットとサーチエンジン
			12 検索演習(5) 総合的な検索演習、まとめ
評価方法	4～5 回程度の実習レポートおよび出席を加味して評価する。		
テキスト参考文献	渡辺、北、澤井、原田共著『情報検索演習』 新・図書館学シリーズ・6、樹村房、1998		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的および講義概要	<p>【注意】「事前に」受講者の抽選を行う。詳細は時間割表を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【講義目標】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【講義概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、WWWの検索エンジンやCD-ROMデータベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション。情報検索の概要
			2 データベース
			3 索引語, シソーラス
			4 情報検索関連作業のプロセス
			5 検索式
			6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 検索結果の評価
			8 WWWの検索エンジン(1)
			9 WWWの検索エンジン(2)
			10 CD-ROM検索
			11 商用オンラインデータベースの検索
			12 授業のまとめ。試験。質問受付。
評価方法	定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。		
テキスト参考文献	適宜指示する。		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書館資料論 (前期完結科目)	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>講義目標 情報源としての図書館資料全般の特質を論じ、その種類、出版と流通、選択、選択ツール、保存管理などについて解説する。</p> <p>授業内容 図書館を構成する4要素のひとつである図書館資料について、その選択・収集・提供・廃棄などを方針や政策さらにツールなどに習熟する。</p>	授業計画	1 図書館資料の意義
			2 図書館資料の定義
			3 表現の自由と検閲
			4 「図書館の自由」
			5 印刷資料
			6 非印刷資料
			7 図書館資料の出版と販売
			8 蔵書の形成
			9 資料の収集と選択
			10 資料の受け入れ
			11 書庫管理
			12 まとめ
評価方法	出席 12×2=24% 課題 15×2=30% テスト 46%		
テキスト参考文献	「図書館資料論」馬場俊明編 日本図書館協会 1998		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	専門資料論	担当者	植田 喜久次

講義目的および講義概要	人文科学・社会科学・自然科学・技術・その他の分野の基本資料に馴染んで、資料の案内及び「選定・収集(組織化)」に関して図書館の基礎的活動を学ぶ。 これらの資料の生成過程を概観し、資料アクセスの手法を身につけるから資料精通への道を開いていく。	授業計画	1 専門資料とは	
	評価方法		出席、課題調査票の提出	2 資料生成過程、組織化の3要素
			テキスト参考文献	『専門資料論』中森強編著(新現代図書館学講座; 9)東京書籍
授業計画	4 人文科学資料 ①		5 " ②	6 " ③
	7 社会科学資料 ①		8 " ②	9 自然科学資料 ①
	10 " ②		11 技術資料	12 その他の資料, まとめ

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要	評価方法	テキスト参考文献	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	資料組織概説	担当者	植田 喜久次

講義目的および講義概要	図書館・情報機関における資料等の活用に結びつける仕組みとデータベースの作成と追求する。資料等の組織化とアクセス手段の確保として把握する。 資料等の区分と集合化の形状・形式と内容等から判断に導いていく。 資料等の管理とアクセス手段・統制化の経路を理解と書誌・コントロールとして掌握する。	授 業 計 画	1 各種メディア
			2 資源の共有化
			3 資料組織化の沿革と方策
			4 書誌コントロール
			5 主題分析
			6 分類法：日本十進分類法(NDC)とその他の分類表
			7 分類目録法の
			8 分類目録法②
			9 分類目録法③
			10 分類目録法④
評価方法	出席, 定期試験		11 主題分析② 基本件名標目表(BSH), シーラス
テキスト参考文献	『資料組織演習』吉田憲一編著 日本図書館協会 (JLA図書館情報学テキストシリーズ; 10)		12 典拠コントロール

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	資料組織演習	担当者	植田 喜久次

講義目的および講義概要	<p>主題から、及び固有名からのアクセスに対処できる提示過程を習得する。</p> <p>主題と固有名の統制と分散化を制御する。</p> <p>書誌の作成をテキスト等から演習する。</p> <p>合理的な書誌言語を学び、書誌データベースの仕組みと統制を修め、コンピュータリング(書誌ユーティリティ体制)に備える。</p>	授 業 計 画	1 書誌言語
			2 目録法：日本目録規則(NCR),英米目録規則(AACR)
			3 書誌データベース①
			4 書誌データベース②
			5 書誌言語演習①
			6 〃 ②
			7 〃 ③
			8 〃 ④
			9 アクセスポイント, 典拠コントロール
			10 アクセスポイントの展開
			11 書誌データベース③
			12 書誌コントロールまとめ
評価方法	出席, 定期試験		
テキスト参考文献	『資料組織演習』古田憲一編著 日本図書館協会 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)10)		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	児童サービス論（後期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>公立図書館・学校図書館などにおける児童およびヤングアダルト向けサービスのうち、</p> <p>(3) 資料に習熟する</p> <p>(4) 図書館プログラムの企画・実際・評価を通じての経営の理解を学ぶ</p> <p>子どもとヤングアダルト向け資料やサービスをめぐる多様な課題—不読書、検閲・焚書、絶版、メディアの多様化—などを考えることを主たる講義内容とする。</p>	授業計画	1 現状分析—「子ども」の概念、図書館と「子ども」
			2 児童・ヤングアダルト向けサービスの理念
			3 児童・ヤングアダルト担当図書館員の役割
			4 児童心理学と読書興味
			10 資料選択と“どう伝えるか” —絵本を中心として「読み聞かせ」「アニメーション」など
			11 資料選択と“どう伝えるか” —伝承文学を中心として「ストーリーテリング」など
			12 資料選択と“どう伝えるか” —児童書と児童文学を中心としてのプログラム
			13 資料選択と“どう伝えるか” —知識の本と調べ学習、図書館利用
			14 資料選択と“どう伝えるか” —ポップ文化：映像と音楽、YA サービス
			10 資料と図書館をめぐる課題—検閲・焚書、絶版等
			11 図書館プログラム企画
			12 図書館プログラムの実際
評価方法	出席 12×2=24% レポート(1) 12×3=36% レポート(2) 20×2=40%		
テキスト参考文献	テキストは指定しませんが、参考文献を活用してください。		



科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書および図書館史（後期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通等に関し歴史的に概説し、さらに図書以外の資料メディアについてもふれる。図書館活動の歴史的発展について解説する。</p> <p>図書館活動史が中心となるので、いわゆる読書文化史の側面はこの科目ではふれない。</p>	授業計画	1 コミュニケーションとメディア
			2 記録メディアの歴史(1)
			3 記録メディアの歴史(2)
			4 図書館活動史
			5 アメリカの図書館史(1)
			6 アメリカの図書館史(2)
			7 イギリスの図書館史
			8 フランス・ドイツ・北欧などの図書館史
			9 日本の図書館史(1)明治維新以前
			10 日本の図書館史(2)明治以後、東京の図書館を中心にして
			11 日本の図書館史(3)市民の図書館の発展
			12 まとめ
評価方法	出席 12×2=24% レポート 26% 試験 50%		
テキスト参考文献	小黒浩司編著 『図書および図書館史』日本図書館協会 2000		

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	資料特論（後期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	郷土資料、行政資料、視聴覚資料などの各種資料特質を論じ、その生産と流通、評価、選択・収集、活用等について解説する。	授業計画	1 図書館資料の種別
			2 地域・行政資料と郷土資料、地域行政資料と国の行政資料、国際行政資料 図書館法や情報公開条例、地域社会形成と住民の「知る自由」
			3 地域・行政資料の収集
			4 地域・行政資料の整理
			5 地域・行政資料の提供と利用 —レファレンス、子どもたちの調べ学習など—
			6 地域・行政資料の保存
			7 行政資料の電子情報化
			8 視聴覚資料の収集と評価
			9 視聴覚資料の整理と提供、活用、保存
			10 視聴覚資料の著作権
			11 特殊資料の収集と整理、提供
			12 まとめ
評価方法	平常点(出席点) 12×2=24% 小レポート 30% 期末レポート 46%		
テキスト参考文献	三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』日本図書館協会、1999		

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的および講義概要	<p>「コミュニケーション」の概念を理解し、「コミュニケーション・リテラシー」の理解・応用へと発展させることができるようにする。</p> <p>&lt;基礎&gt;概念の理解          &lt;専門&gt;教育とコミュニケーションの関係理解          &lt;応用&gt;日常生活での応用、自己点検・評価          &lt;総合&gt;「人間の学習」と「コミュニケーション」という視点を確立する。</p>	授業計画	1 プロローグ
			2 コミュニケーション：概念①
			3 コミュニケーション：概念②
			4 コミュニケーション：概念③
			5 言語と非言語①
			6 言語と非言語②
			7 教育とコミュニケーションの関係
			8 ゲーム：理論と実践①
			9 ゲーム：理論と実践②
			10 メディア・リテラシー①
			11 メディア・リテラシー②
			12 エピローグ
評価方法	出席回数・レポート、定期試験		
テキスト参考文献	ハンドアウトを使用する。		

通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	図書館特論	担当者	山本 順一

講義目的および講義概要	<p>本講義では、図書館および図書館サービスと法とのかかわりについて、検討します。たとえば、公共図書館とそのサービスは、直接的には設置自治体の条例によって規律されるのですが、その背後には図書館法、地方自治法などがあります。また、その立地や建物のあり方については、都市計画法や建築基準法、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（俗にいう‘風営法’）などが大きく関係してきます。このように多数の具体的な法律が図書館と図書館サービスにどのように関わっているのか、一緒に考えてみましょう。</p>	授業計画	1	図書館立法の体系
			2	公共図書館（サービス）と図書館法
			3	地方分権と図書館
			4	図書館と情報政策
			5	図書館と都市機能
			6	図書館サービスと法
			7	ライブラリアンと法
			8	図書館と市民参加
			9	図書館サービスのアウトソーシング
			10	図書館サービスと著作権法
評価方法	受講態度とペーパーテストにより評価する。		11	知的自由と図書館と法
テキスト参考文献	塩見昇・山口源治郎編『図書館法と現代の図書館』日本図書館協会，2002（初版2刷）。		12	外国の図書館立法

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要		授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

科目名	*****	担当者	*****
科目名	学校経営と学校図書館（前期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	目的 学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る。	授業計画	1 学校図書館と公立公共図書館
	概要 生涯学習社会における学校と学校図書館メディア・センター、そして子どもたち自身の「生きる力」を育てるのは司書・司書教諭の力である。学校図書館における人の役割と果たすべき使命について考えていく。		2 学校図書館の理念と教育的意義
			3 学校図書館の発展と課題
評価方法	平常点(出席)12×3=36% レポート 32×2=64%		4 教育行政、学校図書館法と学校図書館、そして学校図書館メディア・センター
			6 学校図書館の経営—施設と「情報化」
テキスト参考文献	資料を配布します。最初の授業時に参考文献を紹介しします。		6 学校図書館の経営—人の問題
			7 学校図書館の経営—予算、評価など
			8 学校図書館の経営—施設と資料、選択・活用など
			9 校内の協力体制、研修など
			10 学校図書館活動
			11 図書館の相互協力とネットワーク
			12 まとめ

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	学校図書館メディアの構成(前期完結科目)	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>目標 学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を目指しながら、司書教論としての基本的な考えの構築を図る。高度情報社会における学習環境の変化にともなうメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種類と特性を説明し、そのメディアの選択と収集を目指し評価を行う能力を養う。</p> <p>講義概要 学校図書館メディア・センターにおける資料の種類・選択・整理を主としておこなう。</p>	授業計画	1 高度情報社会における学校図書館メディアの意義
			2 学校図書館メディア・センターにおける資料の種類と特性
			3 学校図書館メディア・センターにおける資料の選択・収集(1)
			4 学校図書館メディア・センターにおける資料の選択・収集(2)
評価方法	平常点(出席) 12×2=24% レポート 10×7=70% 課題 6×1=6%		5 学校図書館メディア・センターにおける資料の組織化
			6 学校図書館メディアの分類
テキスト参考文献	・志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成』樹村房 1999 ・『図書館講習資料6訂版』日本図書館協会		7 学校図書館メディアの件名目録
			8 学校図書館メディアの目録(1)
			9 学校図書館メディアの目録(2)
			11 学校図書館メディアの目録(3)データベース化
			12 ファイリング資料の構築
			12 まとめ

科目名	*****	担当者	*****			
科目名	*****	担当者	*****			
講義目的および講義概要		授業計画	1			
			2			
			3			
			4			
			5			
			6			
			7			
			8			
			9			
			10			
			評価方法			11
						12
テキスト参考文献						

科目名	*****	担当者	*****
科目名	学習指導と学校図書館（前期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	<p>目標 学習指導における学校図書館メディアの活用についての理解を図る。</p> <p>講義概要 「総合的な学習」などの実習的科目が登場するなど学校教育は変化してきている。また、中学・高校では卒論を書くことを求められている。その児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業成立を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する。</p>	授業計画	1 主体的学習とメディア活用能力育成
			2 メディア活用能力育成の計画と方法(A)
			3 メディア活用能力育成の展開－教科等と融合しての指導計画作成(1-1)
評価方法	<p>平常点(出席)12×1=12%</p> <p>レポート 15×4=60%</p> <p>発表 28%</p>		4 メディア活用能力育成の展開－教科等と融合しての指導計画作成(1-2)
			5 メディア活用能力育成の展開－教科等と融合しての指導計画作成(1-3)各自発表
			6 メディア活用能力育成の計画と方法(B)
テキスト参考文献	なし。授業中に参考文献、URL等を指示する。		7 メディア活用能力育成の展開－「図書館の時間」などを設定しての指導計画作成(2-1)
			8 レファレンス・コレクションの選択・収集・整備・活用(C)
			9 メディア活用能力育成の展開－「図書館の時間」などを設定しての指導計画作成(2-2)
			10 メディア活用能力育成の展開－「図書館の時間」などを設定しての指導計画作成(2-3)各自発表
			11 レファレンス・コレクションの選択・収集・整備・活用(D)
			12 まとめ

科目名	*****	担当者	*****
科目名	学習指導と学校図書館（後期完結科目）	担当者	井上靖代
講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的等はすべて春学期と同じ。)	授業計画	1
			2
			3
評価方法			4
			5
			6
テキスト参考文献			7
			8
			9
			10
			11
			12

科目名	*****	担当者	*****		
科目名	*****	担当者	*****		
講義目的および講義概要		授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			評価方法		11
			テキスト参考文献		12

科目名	*****	担当者	*****		
科目名	読書と豊かな人間性（後期完結科目）	担当者	井上靖代		
講義目的および講義概要	<p>目標： 学校図書館の機能を一層充実させ、児童・生徒の読書の相談、発達段階におこなう適切な読書教育の理論とその具体化のための読書指導の方法論を身につける。</p> <p>講義概要： 小・中・高校の図書館を舞台として、児童・生徒に「読むことは楽しい」ということを実体験してもらい、「読む」ことによって多様な生き方やものの考え方を知り、自分自身を考え、自分自身の生活を選び取っていく力を身につけてもらう援助活動をどうするのかを考え、学校司書や司書教諭として実践していく力をつけるために、多くの読書資料にふれる。</p> <p>(1)子どもの「読む」ということを考える (2)子どもの発達心理と知的好奇心について知る。 (3)子どもの本を自分で読む・批判する。 (4)子どもに「読む」楽しさを伝える。</p>	授業計画	1 子どもの「読む」ということを考える 識字＝リテラシー、ことばの力を考える		
			2 子どもの発達心理と知的好奇心について知る		
			3 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (1)絵本を読む		
			4 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (2)幼年文学などを読む		
			5 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (3)ノン・フィクション、科学の本などを読む		
			6 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (4)児童文学を読む(古典からファンタジーまで)		
			7 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (4)児童文学を読む(ジャンルもの、文庫など)		
			8 児童・生徒向け読書資料の種類を知る (5)児童文化(マンガ、アニメ、ゲームなどを読む)		
			9 子どもに「読む」楽しさを伝える(1)		
			10 子どもに「読む」楽しさを伝える(2)		
			評価方法	平常点(出席) 12×3=26% 小レポート 15×3=45% 最終レポート 30%	11 子どもに「読む」楽しさを伝える(3)
			テキスト参考文献	テキストはないが、最初の授業時に参考文献を指示する。	12 家庭・地域・公立図書館などとの連携



通年科目名	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

科目名	*****	担当者	*****
科目名	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

科目名	*****	担当者	*****
科目名	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的および講義概要	<p>【注意】事前に受講者の抽選を行う。詳細は時間割表を参照し、不明な点は教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【講義目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【講義概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといった各ツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。
			2 高度情報社会と学校教育。情報メディアの特性と選択。
			3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用。
			4 インターネットによる情報検索と発信(1)。
			5 インターネットによる情報検索と発信(2)。
			6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 オフラインデータベースと情報検索(1)。
			8 オフラインデータベースと情報検索(2)。
			9 教育用ソフトウェアの活用。
			10 学校での取り扱いに注意すべき情報。
			11 学校図書館メディアと著作権。
			12 授業全体のまとめ。試験。質問受付。
評価方法	出席・授業中のレポート・学期末試験。		
テキスト参考文献	適宜指示する。		